

令和6年度（10～3月）

北海道環境パートナーシップオフィス（北海道地方ESD  
活動支援センター業務を含む）運営業務

報告書

公益財団法人北海道環境財団

# 目次

はじめに.....	1
業務の目的.....	1
業務の内容.....	1
<b>実施業務</b>	
I 基本業務.....	4
II 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務.....	15
III 北海道 ESD センター業務.....	19
<b>巻末資料</b>	
(1) 相談対応一覧.....	26
(2) その他対応一覧.....	28
(3) 参加行事一覧.....	28
(4) 北海道環境パートナーシップオフィス（北海道地方 ESD 活動支援 センター業務を含む）運營業務 令和 6 年度事業報告.....	30
(5) 北海道地方 ESD 活動支援センター2024 年度レポート.....	52

## はじめに

公益財団法人北海道環境財団は、北海道地方環境事務所との請負契約に基づき、北海道環境パートナーシップオフィス（北海道地方 ESD 活動支援センター業務を含む）運營業務（以下「EPO 北海道運營業務」という。）を実施している。本報告書は、令和 6 年度事業計画に基づく令和 6 年度の EPO 北海道運營業務のうち、令和 6 年 10 月 1 日（火）から令和 7 年 3 月 31 日（月）までの 6 か月間の事業内容を報告するものである。

## 業務の目的

北海道地方環境事務所は、持続可能な社会の実現に向けて、環境パートナーシップを推進するための活動拠点として、平成 18 年 3 月から EPO 北海道を運営している。EPO 北海道は、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（以下「環境教育等促進法」という。）第 19 条に規定する、環境保全の意欲の増進等の拠点としての機能を担っている。

本業務は、EPO 北海道が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また北海道地方 ESD 活動支援センター（以下「北海道 ESD センター」という。）が、「『持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するグローバルアクション・プログラム』実施計画（平成 28 年 3 月 関係省庁連絡会議）」等を踏まえた役割を果たすため、全国の環境パートナーシップオフィス（以下「地方 EPO」という。）と地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワークを活用するとともに、北海道地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及び ESD 活動等を活性化させることを目的とする。

また、「第 5 次環境基本計画」（平成 30 年 4 月閣議決定）において、今後の環境政策は経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からイノベーションの創出や、経済・社会的な課題の同時解決を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしている。その中で、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的とする。

## 業務の内容

EPO 北海道運営協議会及び北海道地方環境事務所と協議の上、令和 6 年度事業計画（巻末資料（4）参照）を作成し、以下の 3 つの業務に取り組んだ。

- I. 基本業務
- II. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務
- III. 北海道 ESD センター業務

なお、運営に当たり、NPO/NGO、行政、企業等、関係者の参加の下に事業を実施するため、「EPO 北海道運営協議会」（以下「EPO 運営協議会」という。）を設置した。EPO 運営協議会は事業計画（案）や事業方針等について協議し、EPO 北海道は協議結果を踏まえて事業を実施した。今期においては第 2 回運営協議会を開催した。

第7期 EPO 運営協議会委員名簿（※50音順・敬称略）

氏名	所属・役職
浅野 祐司	北海道総合政策部計画局計画推進課 主幹（SDGs 推進）
阿部 隆之	伊達市立大滝徳舜警学校 校長
石井 一英	北海道大学大学院工学研究院 教授
大津 和子	北海道教育大学 名誉教授
小泉 雅弘	特定非営利活動法人さっぽろ自由学校「遊」 事務局長
小林 ユミ	一般社団法人北海道再生可能エネルギー振興機構/ 特定非営利活動法人北海道グリーンファンド 事務局長
芝崎 瑞穂	一般社団法人 Change Our Next Decade 代表理事
鈴木 昭徳	生活協同組合コープさっぽろ組織本部 環境推進グループ長
長谷川 理	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 主任研究員
吉中 厚裕	酪農学園大学食農環境学群環境共生学類 学類長

○令和6年度第2回北海道環境パートナーシップオフィス運営協議会

日 時：令和7年1月27日（月）14:00～16:30

会 場：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2（札幌市）

内 容：

EPO 北海道及び北海道 ESD センター運営にあたり、NPO/NGO や行政、企業等、幅広い関係者の参画を得て事業を推進することを目的に開催し、第7期1年目である令和6年度 EPO 北海道事業進捗（案）について協議を行った。

参加者：20人

主 催：EPO 北海道



開催の様子（事業進捗報告）

## 実施業務

# I. 基本業務

## 1. Web サイト等を活用した情報発信、PR

EPO 北海道の Web サイト等を活用し、各事業の実施状況のほか、政府や地方自治体の動き、公募や助成金情報、イベント情報等を地域内外に発信した。併せて、道内の地方自治体や環境 NPO 等を対象としたメールマガジンを配信し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）「Facebook」を活用した。

### (1) Web サイト及び SNS による発信

- ・EPO 北海道（<https://epohok.jp/>）アクセス数  
ページビュー数 41,942 件（前年同期：29,927 件）  
累計ユーザー数 13,465 件（前年同期：15,509 件）
- ・北海道 ESD センター（<https://hokkaido.esdcenter.jp/>）アクセス数  
ページビュー数 32,895 件（前年同期：16,269 件）  
累計ユーザー数 1,333 件（前年同期：766 件）

#### <参考>

- ・環境☆ナビ北海道（<https://enavi-hokkaido.net/>）アクセス数  
※「環境中間支援会議・北海道」の協働運営による  
ページビュー数 37,295 件（前年同期：40,369 件）  
累計ユーザー数 12,427 件（前年同期：14,375 件）
- ・Facebook  
ファン数（フォロワー数）1,124 件（前年同期：1,095 件）  
投稿 9 件（前年同期：24 件）  
訪問数（リーチ）累計 2,566 件（前年同期：1,121 件）

### (2) メールマガジンの配信

- メールマガジン 発行部数（1,971 部）  
今期第 2・4 火曜日に合計 14 通の配信（臨時号等も含む）

## 2. 相談対応・対話の場作り（政策コミュニケーション）等

環境教育等促進法第 19 条第 1 項に基づく国の拠点として、各種の情報照会及び相談に広く対応し、必要に応じて助言や実施業務への支援を行ったほか、過去に対応した案件についてのフォローアップを行った。相談件数は 69 件であった（巻末資料（1）参照）。

道内自治体との連携による政策コミュニケーションの実現に向けた対話の場づくりとして、七飯町での地球温暖化対策実行計画策定に係るワークショップを開催した（計 1 回）。また、パートナーシップ形成のための対話の場づくりとして、上期に引き続き連続企画「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」を 1 回開催したほか、令和 3 年度から 5 年度にかけて実施していた「北海道生物多様性保全ダイアログ」の続編企画、釧路湿原の開発に関する勉強会を共催した（計 3 回）。

(1) 道内自治体との連携による政策コミュニケーションの実現に向けた対話の場づくり

○七飯町地球温暖化対策実行計画意見交換会

日 時：令和6年10月19日（土）14:30～16:30

場 所：七飯町役場会議室（七飯町）

内 容：

町が策定を進める「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の概要について説明した後、パブコメワークショップ形式の意見交換を行った。

参加者：11人

主 催：七飯町

協 力：EPO 北海道



開催の様子（意見交換）

(2) パートナーシップ形成のための対話の場づくり

○連続企画「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」

・第4回 自然共生サイトと生物多様性増進活動促進法

日 時：令和6年11月26日（火）14:00～16:00

場 所：オンライン（オンライン会議システム「Zoom」を使用）

内 容：

自然共生サイトの制度と新たに来年度から施行される「生物多様性増進活動促進法」による地域の民間活動支援の仕組みについて解説ののち、道内において自然共生サイトを登録した企業、NGO、自治体の三者から登録のねらいや効果・課題などの事例共有とディスカッションを行った。

登壇者：

西野 雄一氏（環境省北海道地方環境事務所 野生生物課長）、松本 啓吾氏（三菱マテリアル株式会社）、松本 潤慶氏（公益財団法人日本野鳥の会）、高橋 興世氏（黒松内町企画環境課）、長谷川 理氏（特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所）

参加者：128人

主 催：EPO 北海道、北海道、北海道生物多様性保全活動連携支援センター（HoBiCC）



開催の様子（黒松内町からの事例紹介）

○第10回北海道生物多様性保全ダイアログ～北海道生物多様性保全計画第2次計画について～

日 時：令和7年2月6日（木）15:00～16:30

場 所：オンライン（オンライン会議システム「Zoom」を使用）

内 容：

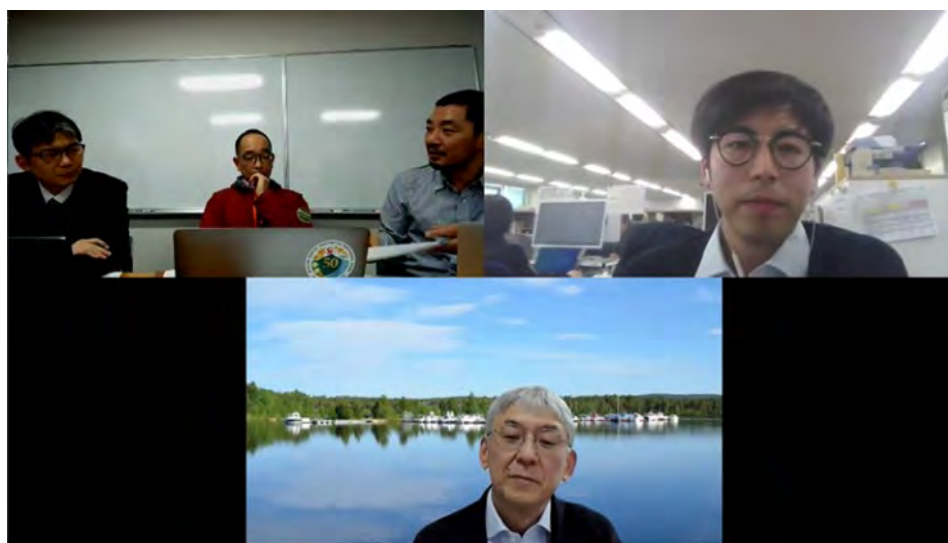
新たに策定された北海道生物多様性保全計画（第2次計画）について、前提となる生物多様性国家戦略と、第2次計画のポイントを解説し、これまでに議論されてきた点等の話題提供を踏まえ、計画の活用へ向けてのディスカッションと質疑応答を行った。

登壇者：

高橋 義朋氏（環境省自然環境計画課 生物多様性戦略推進室）、永仮 敦善氏（北海道 自然環境課）、吉中 厚裕氏（北海道環境審議会会長／酪農学園大学）、長谷川 理氏（特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所）

参加者：63人

主 催：北海道、EPO 北海道、北海道生物多様性保全活動連携支援センター（HoBiCC）



開催の様子（ディスカッション）



○第4回もっと釧路湿原学習会「市長と一緒に考えよう！太陽光乱開発と条例」

日 時：令和7年1月23日（木）18:00～21:00

場 所：946BANYA（釧路市）及びオンライン

内 容：

釧路湿原における太陽光発電施設開発の状況について、主催者よりこれまでの経緯・現状報告の後に、有識者から資金の域外流出や健全な地域脱炭素に向けた削減シナリオ等についてデータを示して説明し、EPOから再エネのワイズユースに向けた情報提供・問題提起等を行った。引き続き、釧路市の鶴間市長を交えて会場との意見交換及びグループ討議等を実施した。

登壇者：

鶴間 秀典氏（釧路市長）、歌川 学氏（国立研究開発法人産業技術総合研究所）、久保田 学（EPO北海道）

参加者：会場 85 人、オンライン 100 人

主 催：釧路自然保護協会、もっと釧路湿原、釧路ユネスコ協会

共 催：EPO 北海道



開催の様子（歌川氏による講演）

### 3. 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務

地域の脱炭素化を推進するにあたり、困りごと・ニーズを持つ道内の自治体等と、解決できる強み・ソリューションを持つ民間企業等がマッチングできる機会を提供するため、北海道地方環境事務所及び北海道庁と協働しながら、上期に札幌市で開催した地域脱炭素ネットワークフォーラムの地方開催に加え、より具体的なソリューションマッチングの機会などを創出した（計3回）。

また、国土交通省北海道開発局及び北海道地方環境事務所との協働で、地域の自然環境に関して継続的に活動する環境団体と民間企業の対話及び共創のきっかけづくりを目的に「グリーンインフラの保全と民間連携に係るセミナー及び意見交換会」を開催した。

すべての企画で会場と一部オンライン配信のハイブリッド開催とし、オンライン会議システム

「Zoom」を使用した。

○地域脱炭素ネットワークフォーラム@釧路・根室

日 時：令和6年11月19日（火）15:15～17:15

場 所：釧路センチュリーキャッスルホテル 鳳の間（釧路市）及びオンライン

内 容：

釧路・根室管内自治体が脱炭素に取り組むために必要な情報やノウハウを共有し、民間企業との出会いの場を提供するため、講演と4組の事例発表、質疑応答を実施した。後半には関心のあるテーマごとにグループでの意見交換の時間を設け、官民共創のきっかけとなる交流を促した。

参加者：会場66人、オンライン13人

主 催：北海道、環境省北海道地方環境事務所、公益財団法人北海道環境財団、EPO北海道



開催の様子（意見交換）

○地域脱炭素ネットワークフォーラム@上川

日 時：令和6年11月28日（木）13:30～16:30

場 所：イオンモール旭川駅前店 イオンホール（旭川市）及びオンライン

内 容：上川管内自治体が脱炭素に取り組むために必要な情報やノウハウを共有し、民間企業との出会いの場を提供するため、講演と3組の事例発表、参加者からの事前アンケートを基にしたクロストーク・質疑応答を実施した。後半にはグループでのワークショップとして各自の取組みに向けた課題などの共有と意見交換を行った。

参加者：会場73人、オンライン29人

主 催：

北海道（上川総合振興局環境生活課、経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課）、旭川市、環境省北海道地方環境事務所、公益財団法人北海道環境財団、EPO北海道



開催の様子（開会挨拶）

○地域脱炭素ソリューションマッチング会

日 時：令和7年2月14日（金）13:30～18:30

場 所：HOKKAIDO×Station01（札幌市）及びオンライン

内 容：

太陽光発電および ZEB の事業を進めている、あるいは事業を検討している自治体と、その技術を有する民間企業との出会いの場を提供するため、企業 10 組による発表と、ファシリテーターとして石井 一英氏（北海道大学大学院工学研究院教授）を交えた座談会・質疑応答をオンライン配信とのハイブリッドにて実施した。後半にはより具体的・個別の相談が可能な交流時間を設けた。

参加者：会場 34 人、オンライン 44 人

主 催：

環境省北海道地方環境事務所、北海道、株式会社ジェイアール東日本企画、公益財団法人北海道環境財団、EPO 北海道



開催の様子（交流会）

○グリーンインフラの保全と民間連携に係るセミナー及び意見交換会

日 時：令和6年11月19日（火）14:00～17:00

場 所：北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウ（札幌市）及びオンライン

※現地視察 同日 8:30～12:30 南幌町及び札幌市

内 容：

道内外の企業の生物多様性保全対応等に係るニーズに応え、連携・協働によって環境保全活動の継続・拡大を促進することを目指し、ネイチャーポジティブ及びグリーンインフラをテーマとしたオンラインセミナー及び、札幌圏の湿地保全や環境教育等に関わる5つの団体と会場参加の民間企業等との意見交換会を開催した。

登壇者：

藤田 香氏（日経 ESG 編集シニアエディター、東北大学グリーン未来創造機構／大学院生命科学研究科 教授）、有賀 望氏（札幌ワイルドサーモンプロジェクト 代表）、石山 優子氏（うみいく 代表）、牛山 克巳氏（宮島沼水鳥・湿地センター センター長）、坂元 直人氏（NPO 法人北海道環境カウンセラー協会）、松澤 直紀氏（一般社団法人かのあ 代表）

参加者：会場 54 人、オンライン 262 人

共 催：国土交通省北海道開発局、環境省北海道地方環境事務所、EPO 北海道

協 力：石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク しめっちネット



開催の様子（意見交換会）

#### 4. 全国事業に関わる業務

全国 EPO ネットワークの活動効果の最大化及び地方 EPO 間の情報共有・連携強化等を目的とする以下の会議に出席した。

##### (1) 全国 EPO 連絡会

第2回 令和6年10月1日（火）13:00～18:00

10月 2日 (水) 9:30~12:00 富山県民会館 (富山県) 及びオンライン  
第3回 令和7年 1月16日 (木) 13:00~18:00  
1月17日 (金) 9:30~12:00 GEOC (東京都) 及びオンライン

## (2) 地球環境基金とEPOの連携に関する制度設計打合せ

第6回 令和6年12月13日 (金) 13:00~15:00 GEOC (東京都)

## (3) EPO ネットワークとの情報交換会 (持続可能な地域づくりのための勉強会)

令和6年12月20日 (金) 15:00~17:00 GEOC (東京都) 及びオンライン

## 5. オフィスの維持・管理、運営

### (1) 施設の維持管理

EPO 北海道の設備等を維持・管理するために必要な業務を行った。また、他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保等を行った。業務はスタッフ4名相当で行い、原則として月~金曜日の10:00~18:00を業務時間とし、土・日曜日、祝日は休業とした。

### (2) 月例会議の開催

オフィス常駐スタッフ、北海道地方環境事務所及び公益財団法人北海道環境財団の三者で、下記の日程でスタッフミーティングを開催した。

第7回 令和6年10月22日 (火) 16:00~17:30  
第8回 令和6年11月27日 (水) 10:30~12:00  
第9回 令和6年12月24日 (火) 13:30~15:00  
第10回 令和7年1月22日 (水) 10:00~12:00  
第11回 令和7年2月17日 (月) 10:00~12:00  
第12回 令和7年3月17日 (月) 10:00~12:00

## 6. 各種情報の収集

本業務に関連して道内外の産学官民の動向及び国内外の最新の情報をさまざまな機会をとおして収集し活用した。また、日本環境教育学会、日本ESD学会及び日本環境学会への参画や、地球環境戦略研究機関 (IGES)、地球温暖化防止全国ネット等との情報交流を通して、持続可能な地域づくり、気候変動教育、それらの推進基盤となる中間支援組織等に関する情報受発信、協力体制構築、事業協働等を行った。

## 7. EPO 北海道及び北海道ESDセンターが構成機関となっている会議体への参画

第6期までのEPO北海道及び北海道ESDセンターが構成機関となっている会議体の業務等を継続した。継続した業務は次の2つである。

## (1) 「環境中間支援会議・北海道」の協働運営

札幌圏の環境中間支援組織3団体（EPO 北海道、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ（指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会））と関係行政機関で構成する「環境中間支援会議・北海道」の協働運営を継続し、定期的な情報共有と活動への反映等を行った。

### ・第1回定例会

日 時：令和6年10月4日（金） 北海道環境財団（札幌市）及びオンライン

参加者：9人（関係者3人）

内 容：各組織の実施事業報告やイベント案内、環境ナビ☆北海道のアクセス数等について

### ・第2回定例会

日 時：令和7年3月28日（金） 札幌市環境プラザ（札幌市）及びオンライン

参加者：10人（関係者3人）

内 容：各組織の今年度事業報告等の共有、次年度事業に関する意見交換

## (2) 自治体の主宰する委員会等の委員就任その他

道内自治体が主宰する各種委員会等へ参画した。また、SDGs やローカル SDGs 「地域循環共生圏」の推進に係り、民間組織が設置する協議会等に参画した。詳細は下記のとおり。

### 1) 石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

設 置 者：石狩市（環境保全課）

任 期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

開催状況：令和6年度第2回運営委員会 令和7年2月12日（水）

### 2) 北海道 SDGs 推進プラットフォーム「SDGs 推進委員会」

設 置 者：生活協同組合コープさっぽろ

任 期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

開催状況：第10回 SDGs 研究会 令和6年12月12日（木）

### 3) 七飯町ゼロカーボン推進協議会

設 置 者：七飯町

任 期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

開催状況：第2回 令和6年11月25日（月）、第3回 令和7年1月28日（火）

### 4) 札幌市環境プラザ運営協議会

設 置 者：札幌市環境局環境計画課

任 期：令和6年10月～令和8年3月31日

開催状況：第1回 令和6年10月29日（火）、第2回 令和7年2月26日（水）

### 5) 北海道 SDGs 連携会議

設 置 者：北海道総合政策部計画局

開催状況：令和6年10月31日（木）

### 6) 2024年度北海道学生研究会 SCAN 合同研究発表会審査員

設 置 者：北海道学生研究会 SCAN

開催状況：令和6年12月7日（土）、12月8日（日）

7) 第7回持続可能な世界・高校生コンテスト審査員

設置者：第7回持続可能な世界・北海道高校生コンテスト実行委員会

開催状況：発表・交流会 令和7年1月26日（日）

## 8. 外部資金を活用した協働事業

道内の環境 NPO/NGO の環境保全活動に対するより一層的確な支援策の検討及び実施を目的として、独立行政法人環境再生保全機構が実施する地球環境基金事業への事業協力（助成金説明会及び今後のEPOとの連携体制の検討等）を行った。

○2025年度地球環境基金助成金説明会（北海道地区）

日時：令和6年10月8日（火）14:00～16:00

場所：オンライン

内容：

事例紹介「環境教育から学校づくりの構想へ いきものいんく 12年の軌跡」と、地球環境基金助成金2025年度募集概要及び要望書に係る解説を配信した。

登壇者：加藤 康大氏（特定非営利活動法人いきものいんく）

参加者：21人

主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部

協力：EPO 北海道



開催の様子（事例紹介）

## 9. その他

1から8の業務を実施する中で、環境省（環境省からの依頼に基づく他団体）からの各種情報の受

発信などに対応した。また、関連する道内の産学官民の動向及び国内外の最新の情報を必要に応じて幅広く収集し、実施業務に活用した（巻末資料（3）参照）。



## II. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### 1. 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

#### (1) 中間支援機能の担い手育成業務

地域循環共生圏づくりに取り組む地方公共団体、民間団体又は協議会（以下「活動団体」という。）に対して、地域循環共生圏づくりの中間支援を行う団体等（以下「中間支援主体」という。）が中間支援機能を身に付け、パートナーシップによって地域循環共生圏づくりを推進できるようになるための支援を行った。

具体的には、北海道地方ブロックで採択された3つの案件について、中間支援主体が検討する、活動団体の取組をより加速させるための見立てと打ち手に対して北海道地方環境事務所と共に組織する地方支援事務局として助言を行った。

また、打ち合わせ結果と中間支援主体に対するフォローシート等を四半期に一度、GEOCに提出した。

北海道地方ブロックにおける採択案件

	主な活動地域	中間支援主体	活動団体
①	北海道石狩市 浜益区	特定非営利活動法人 ezorock	浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」
②	北海道美幌町	株式会社地域価値 協創システム	株式会社大雪を囲む会
③	北海道豊富町	学校法人北海学園	一般社団法人豊富町観光協会

#### (2) キックオフミーティング及び中間共有会の開催

活動団体と関係者（全国支援事務局含む）間のノウハウ交流や学びあい、団体の活動状況把握を目的とする中間共有会を開催した（キックオフミーティングは上期に実施）。

##### ・北海道地方ブロック中間共有会

日時：令和6年11月20日（水）13:00～15:30

場所：旭川市市民活動交流センター CoCoDe（旭川市）

内容：

北海道地方ブロックにおける参加団体（活動団体及び中間支援主体）の活動進捗状況を共有し、活動団体の最終成果物作成・活用に向けた確認、各地域の課題解決に資するノウハウの獲得、今後の取り組みにおけるポイントの整理等を図ることを目的に開催し、各参加団体からの事業進捗の発表後、質疑応答及び意見交換を行った。

参加者：25人

主催：EPO北海道



開催の様子（各団体による進捗共有）

### (3) GEOC が主催する会議等への参加

GEOC が主催する地域循環共生圏づくり支援体制構築事業検討会議、第2回作業部会、中間支援主体が対象の中間支援ギャザリング②（成果共有会に相当）に参加した（地方 EPO 等共有会、中間支援ギャザリング①（中間支援主体を対象としたキックオフミーティングに相当）、第1回作業部会は上期に実施）。中間支援ギャザリング②に向けては、活動団体の資料作成等を支援し、当日の意見交換を補佐した。

#### 1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業検討会議

令和6年12月18日（水） オンライン

#### 2) 第2回作業部会

令和7年1月30日（木） GEOC（東京都）

#### 3) 中間支援ギャザリング②

令和7年2月27日（木） 28日（金）

TKP 新橋カンファレンスセンター（東京都）

### (4) 次年度の地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に係る参加団体の審査委員会運営業務

有識者等による審査委員会を開催し、次年度の地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加団体の継続審査に関する業務を行った。

・審査委員会 令和6年12月20日（金） オンライン

### (5) 卒業団体のフォローアップ調査

GEOC が実施する令和元年度～令和5年度の地域循環共生圏プラットフォーム業務で環境整備、支援チーム派遣または事業化支援を終了した活動団体（以下総称して「卒業団体」という。）のその後の取り組みの進捗の把握について、道内の卒業団体のヒアリングを実施し、GEOC に報告するとともに、GEOC が実施する調査についても求めに応じて協力した。

・対象団体：特定非営利活動法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト

（令和3、4年度地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の活動団体「余市町観光地域づくり協議会」中心メンバー）

実施日：令和7年1月17日（金） オンライン

## 2. 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会開催

身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会を開催し、自然資本を基盤とする地域づくりに関するパートナーシップの促進を図った。

○自然と文化と産業をつなぐ 積丹わくわく会議

日時：令和7年1月29日（水）13:00～15:00

場所：積丹町総合文化センター（積丹町）

内容：

環境省ローカルSDGs「地域循環共生圏」の考え方について地域の関係者で共有し、身近な自然資本を活用した地域づくりを促進するため、積丹町において環境学習の機会の創出や、地域コミュニティの継続に取り組む人材の交流を軸とした意見交換会を開催した。

登壇者：

池田 和聡氏（びくに苺園）、小山 彩由里氏（積丹町地域おこし協力隊）、櫻井 珠真呂氏（株式会社つぎきの森 代表）、森 雅人氏（特定非営利活動法人じもっと 理事長）

参加者：43人

主催：EPO 北海道

協力：SHAKOTAN 海森学校

後援：積丹町



開催の様子（登壇者からの話題提供）

○自然資本の活用に関する意見交換会 地域・自然・世界をつなぐアウトドアの仕事

日時：令和7年3月10日（月）18:00～20:00

場所：札幌文化芸術交流センター SCARTS コート（札幌市）

内 容：

新たな取り組みを進めている道内アウトドア業界のユース世代から情報提供を行った後、参加者を交えた意見交換を行った。

登壇者：

岸上 夏樹氏（特定非営利活動法人 C・C・C 富良野自然塾事業統括）、外崎 雄斗氏（奥尻ゲストハウス imacoco 代表）、野田 和規氏（株式会社白老ネイチャーオフィス 代表）、原田 亮二氏（カヌー屋 TOIMOK 代表）

参加者：51 人

主 催：EPO 北海道

協 力：

アウトドアユースウェーブ北海道、北海道アウトドアネットワーク設立準備会、藤女子大学ワークショップデザインラボ



開催の様子（参加者意見交換）

### 3. 地域循環共生圏に関する情報提供、関係性構築等

1 及び 2 の業務を通じて地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）や背景情報を把握し、地域循環共生圏に関する情報を提供し、関係性を構築した。

また、環境本省からの連絡に基づき、北海道地方環境事務所、関係者と連携し業務を実施し、各業務の実施状況について連絡を密に取り対応した。

## Ⅲ. 北海道 ESD センター業務

### 1. 北海道 ESD センターの運営

多様な主体が参画・連携し、ESD 活動に取り組む地域の活動を推進・支援するとともに、北海道内の ESD 関係情報の収集・発信、実践者の声を踏まえた北海道内の ESD 活動支援、ネットワークの構築、北海道内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供等を担う北海道 ESD センターを運営した。

### 2. ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等

域内の ESD 活動に関する情報を収集し、域内外に発信するとともに、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、業務において活用するとともに ESD 活動実践者等に発信した。

#### (1) 地方センターWeb サイトのコンテンツ等の作成、運用等

道内の ESD 活動事例や ESD の推進に有用な情報、関連する地域情報等を収集・整理し、ESD 活動支援センター（以下、「全国センター」という。）の Web サイトに設けられた地方センターのページに掲載した。

### 3. ESD 活動に関する相談・支援窓口

ESD 活動の相談・支援窓口であることを周知するとともに、地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO・NGO、企業等）等からの相談・照会に対応した。相談や支援要請に基づきスタッフが出講等の協力を実施した（巻末資料（3）参照）。加えて、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に支援する等により、ESD 活動の普及に努めた。

#### (1) ESD アドバイザー派遣制度の運用

第5期から継続して運用している ESD アドバイザー派遣制度について、今期における登録については以下のとおり。

- ・アドバイザー登録（五十音順、所属は令和6年4月現在）  
大津和子氏（北海道教育大学 名誉教授）  
金澤裕司氏（前 羅臼町教育委員会自然環境教育主幹）  
松田剛史氏（藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授）

### 4. 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

#### (1) 「2030 学びあいプロジェクト」の実施

ESD 推進ネットワークが全国で重点的に進める「気候変動を切り口とする ESD」の先導事業（「2030 学びあいプロジェクト」）として、令和5年度から「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」

を継続して実施しており、今期は以下の事業を札幌市円山動物園とともに共催した（計3回）。

また、道内の動物園・水族館等社会教育拠点における気候変動教育の可能性の検討を目的として、以下の施設へのヒアリング及び意見交換を行った。

#### ○気候変動・生物多様性タウンミーティング in 円山動物園

- ・第1回 「アムールトラ・ユキヒョウ編～寒帯林・高山帯で何が起きているのか～」

日 時：令和6年11月2日（土）13:00～16:00

内 容：

動物園スタッフによる寒帯館のガイドを行った後、ゲストから高山帯や寒帯林の環境、自然と共生する先住民の暮らし、人間活動や気候変動の直接・間接の影響による環境変化等の情報提供を行った。それらを踏まえて問題解決へのアプローチや動物園の役割について参加者意見交換を行った。

登壇者：伊藤 健次氏（写真家）、工藤 菜生氏（札幌市円山動物園）

参加者：21人

- ・第2回 「アジアゾウ・オランウータン編 ～アジアの森と私たちの暮らし～」

日 時：令和6年11月16日（土）13:00～16:00

内 容：

動物園スタッフによるゾウ舎・オランウータンの森でのガイドを行い、パーム油に関するワークショップを実施した。それらを踏まえてゾウやオランウータンを通じた熱帯雨林の開発と私たちの生活との関わりやエシカルな暮らし・経済の可能性について対話を行った。

登壇者：八木 亜紀子氏（特定非営利活動法人開発教育協会）、朝倉 卓也氏（札幌市円山動物園）

参加者：23人

- ・第3回 「ゴマフアザラシ・ワシ類編 ～気候変動と北海道の野生生物～」

日 時：令和6年11月23日（土）13:00～16:00

内 容：

動物園スタッフによる猛禽舎・ホッキョクグマ館のガイドを行った後、気候変動やその対策の影響を受けている北海道の野生生物について情報提供を行い、気候変動を身近な問題と捉えた対話を行った。

登壇者：

小林 万里氏（東京農業大学）、長谷川 理氏（特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所）、

菊池 晏那氏（札幌市円山動物園）

参加者：26人



開催の様子（第2回 園内ガイド）

○動物園・水族館等へのESD・環境教育実践状況に関するヒアリング・意見交換実施状況

- ・おびひろ動物園（帯広市） 令和6年10月30日（水）
- ・おたる水族館（小樽市） 令和6年11月5日（火）
- ・標津サーモン科学館（標津町） 令和6年11月12日（火）
- ・千葉市動物公園（千葉市） 令和6年12月19日（木）
- ・登別マリパークニクス（登別市） 令和6年12月23日（月）
- ・サケのふるさと千歳水族館（千歳市） 令和7年1月15日（水）

## 5. ESD活動に関するネットワークの構築

地域のESD活動実践者等が、活動を効果的・効率的に行えるよう、ESDに関する情報提供や活動情報の相互共有などの支援を行うとともに、地域におけるESDを促進するため、以下の業務を実施した。

### (1) ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

全国フォーラムの地域版として、地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、ESD推進ネットワーク地域フォーラム（以下「地域フォーラム」という。）を開催した。地域フォーラム当日は、地域ESD拠点やESD活動実践者等を交えて、地域におけるESD活動の課題やニーズ等を把握するとともに、地域ESD拠点との連携による普及・啓発の効果的な手法等について意見交換を行った。

○ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム

「～円山動物園×気候変動教育プロジェクト～動物園・水族館と考える気候変動・生物多様性」

日 時：令和7年3月20日（木・祝）13:00～15:15

場 所：札幌市円山動物園（札幌市）

内 容：

動物園・水族館における気候変動教育の推進を目的とし、今年度の学び合いプロジェクトの成果の発

信とともに、道内の動物園や水族館での取り組みを共有し、今後の可能性と展開についてパネルディスカッションを行った。

登壇者：

松本 朱実氏（社会構想大学院大学特任教授）、高田 学氏（旭川市環境部）、有賀 望氏（札幌市豊平川さけ科学館）、工藤 菜生氏（札幌市円山動物園）、飯島 なつみ氏（札幌市円山動物園）、久保田 学（EPO北海道）

参加者：会場 30 人、オンライン 50 人

主 催：札幌市円山動物園、北海道地方 ESD 活動支援センター



開催の様子（パネルディスカッション）

## (2) 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

道内の地域 ESD 拠点等との間で相互に情報共有を実施すると共に、地域 ESD 拠点が実施するプロジェクトに関する企画協力・情報発信等を実施した。

### ○地域 ESD 推進拠点へのヒアリング及び支援

- ・国立日高青少年自然の家(日高町)

内 容：SDGs に係る情報提供及び意見交換

実施日：令和 6 年 12 月 10 日（火）

- ・特定非営利活動法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）

内 容：エネルギー自給勉強会、企業向け Well-being 研修などに係る相談対応・開催協力  
実施日：

相談対応・意見交換 令和 6 年 10 月 15 日（火）、11 月 1 日（金）

企業向け Well-being 研修検討会 令和 6 年 12 月 16 日（月）

- ・合同会社エゾリンク（札幌市）

内 容：アプリ開発企画支援・打ち合わせ

実施日：令和 7 年 2 月 20 日（木）



○道内のESD活動実践者等に対するヒアリング

- ・帯広農業高校（帯広市） 令和6年10月30日（水）
- ・岩見沢農業高校（岩見沢市） 令和6年11月6日（水）
- ・北海道伊達開来高校（伊達市） 令和6年12月23日（月）

## 6. 全国センターとの連携協力の推進等

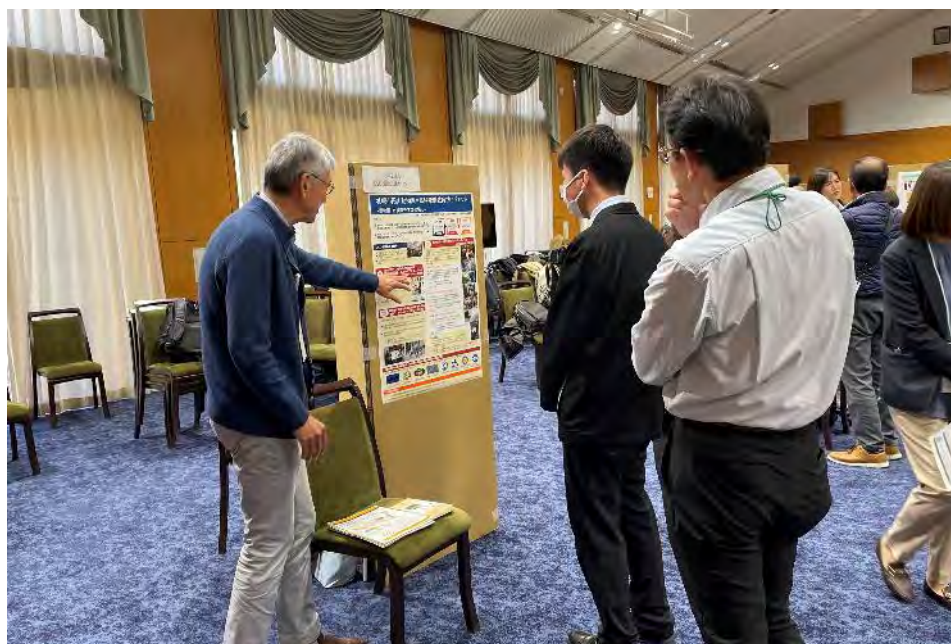
ESD活動支援センター（全国・地方）間の連携強化と情報共有を目的として全国センターが開催する会合等に参加した。

### (1) ESD推進ネットワーク全国フォーラム

日時：令和6年12月1日（日）13:30～15:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

内容：「2030学び合いプロジェクト」、気候変動教育に関する情報・実践事例の共有



開催の様子（ポスターセッション）

### (2) 第2回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会

日時：令和7年1月17日（金）13:00～16:30

場所：GEOC（東京都）及びオンライン

内容：地方センターの活動報告及び令和7年度新規事業についての説明・意見交換

### (3) 第2回気候変動教育作業部会

日時：令和7年2月25日（火）13:00～16:00

場所：GEOC（東京都）及びオンライン

内容：地方センターによる学び合いプロジェクトの活動報告・意見交換等

#### (4) 第2回 ESD 活動支援企画運営委員会

日 時：令和7年2月28日（金）10:30～12:30

場 所：オンライン

内 容：全国センター活動報告及び次年度活動計画案等

### 7. 構成機関への活動協力

EPO 北海道及び北海道 ESD センターが構成機関となっている「RCE 北海道道央圏協議会」の活動への協力を継続して行った。

### 8. 年次報告書の作成、配布

地方 ESD センターの取り組みを関係者に周知するため、年次報告書を作成し、関係団体へ電子媒体で配布した。詳細は巻末資料（5）北海道地方 ESD 活動支援センター 2024 年度レポートのとおり。

## 卷末資料

## 巻末資料（１）相談対応一覧

No.	対応月	方法	相談者属性	業務区分	相談内容・テーマ
1	R6. 10	メール等	NPO/NGO	基本業務	気候市民会議の開催について意見交換
2		メール等	行政	基本業務	温対計画意見交換会プログラムについて
3		メール等	NPO/NGO	地域循環共生圏	脱炭素地域づくりに関する講演依頼
4		対面	企業・事業者	ESD センター	事業者向けの脱炭素教育について意見交換
5		メール等	行政	基本業務	温対計画意見交換会資料について助言
6		メール等	大学・研究者	基本業務	メガソーラー問題に関する勉強会について
7		対面	企業・事業者	ESD センター	気候変動市民会議について意見交換
8		対面	企業・事業者	基本業務	地域裨益型再エネ事例について意見交換
9		オンライン	企業・事業者	基本業務	脱炭素官民共創プラットフォームについて
10		対面	大学・研究者	ESD センター	適応策に関する教育事業の展開について
11		オンライン	行政	ESD センター	高校向け気候変動教育について意見交換
12		対面	行政	ESD センター	ゼロカーボン探究学習コンテンツについて
13		対面	教育関係者	基本業務	環境領域の官民共創の場づくりについて
14		メール等	大学・研究者	地域循環共生圏	中間支援組織に関する政策提案について
15		オンライン	行政	ESD センター	高校向け気候変動教育について意見交換
16		対面	公益団体	ESD センター	自治体職員向け気候変動教育について
17	R6. 11	オンライン	NPO/NGO	ESD センター	ウェルビーイング企業研修について
18		対面	行政	ESD センター	環境教育の取り組み状況について意見交換
19		オンライン	大学・研究者	ESD センター	地域教育における機会格差について
20		対面	教育関係者	ESD センター	環境教育プログラムについて意見交換
21		オンライン	教育関係者	ESD センター	環境教育プログラムについて意見交換
22		オンライン	教育関係者	ESD センター	ウェルビーイング企業研修について
23		対面	企業・事業者	基本業務	脱炭素に関する相談窓口運営について
24		電話	行政	基本業務	脱炭素等に関する町民向けセミナー
25		対面	企業・事業者	基本業務	脱炭素に関する相談窓口運営について
26		電話	NPO/NGO	基本業務	気候市民会議について情報提供
27		対面	NPO/NGO	地域循環共生圏	ビオトープフォーラムの開催検討について
28		メール等	NPO/NGO	基本業務	中間支援組織のネットワーク形成について
29		メール等	行政	基本業務	温対計画の記載事項について意見出し
30		対面	企業・事業者	基本業務	地域電力会社設立に関する情報・意見交換
31	R6. 12	メール等	公益団体	ESD センター	多文化共生分野と動物園事業の接点
32		メール等	NPO/NGO	基本業務	地域利益流出に関する学習会について
33		メール等	大学・研究者	ESD センター	北海道の ESD に関する情報提供依頼
34		対面	企業・事業者	基本業務	食品サプライチェーン環境負荷計算
35		対面	企業・事業者	地域循環共生圏	観光分野の取組について意見交換

No.	対応月	方法	相談者属性	業務区分	相談内容・テーマ
36		オンライン	企業・事業者	ESD センター	環境教育プログラムについて意見交換
37		対面	企業・事業者	ESD センター	水族館での気候変動教育について
38		対面	大学・研究者	ESD センター	再エネに関する担い手育成について
39		対面	大学・研究者	ESD センター	環境分野でのリカレント教育について
40		対面	公益団体	基本業務	環境領域へのファンドレイズについて
41		オンライン	企業・事業者	ESD センター	気候変動に関する担い手育成について
42		対面	NPO/NGO	基本業務	脱炭素に関する市民勉強会について
43		対面	企業・事業者	基本業務	ネイチャーポジティブ PF の整備について
44		メール等	NPO/NGO	基本業務	再エネ勉強会の企画について意見交換
45	R7. 1	オンライン	大学・研究者	ESD センター	道内の ESD 実践状況について情報提供
46		オンライン	企業・事業者	基本業務	脱炭素プラットフォーム形成について
47		対面	企業・事業者	基本業務	アップサイクルに関する補助金について
48		対面	企業・事業者	基本業務	脱炭素の相談窓口運営について意見交換
49		対面	行政	ESD センター	気候変動教育について意見交換、助言
50		メール等	NPO/NGO	基本業務	地域循環共生圏事業の紹介依頼情報提供
51		メール等	NPO/NGO	基本業務	講座講師の依頼
52		メール等	企業・事業者	基本業務	海洋プラスチック汚染に係る有識者情報
53		対面	行政	基本業務	米国における脱炭素政策について意見交換
54		対面	大学・研究者	基本業務	動物福祉に基づく畜産関連の取組について
55		対面	一般・その他	基本業務	林業の持続可能性に資する取組について
56	R7. 2	電話	大学・研究者	ESD センター	動物園での気候変動教育について取次依頼
57		対面	公益団体	基本業務	道内環境 NPO の動向について情報提供
58		対面	省庁・国立機関	基本業務	自然再生事業への協力について意見交換
59		対面	大学・研究者	地域循環共生圏	地域循環共生圏事業について情報提供
60		オンライン	行政	基本業務	気候変動に関する場づくりについて
61	R7. 3	対面	行政	ESD センター	環境教育に関する市町村の動向について
62		対面	企業・事業者	基本業務	地域裨益型の再エネ推進について意見交換
63		オンライン	行政	基本業務	気候変動に関する場づくりについて
64		対面	企業・事業者	基本業務	サステナブルツーリズムについて
65		オンライン	行政	基本業務	気候変動に関するナッジの事例について
66		対面	企業・事業者	基本業務	藻場再生事業について意見交換
67		オンライン	公益団体	基本業務	道内森林の遺贈寄附について意見交換
68		メール等	大学・研究者	基本業務	エネルギー需要計測システムについて
69		メール等	行政	ESD センター	環境教育に関する学会における企画協力

## 巻末資料（２）その他対応一覧

実施日	行事等名称
令和6年10月15日（火）	新得町立屈足中学校での講演
12月19日（木）	第3回道立青少年体験活動支援施設社会教育主事研修会での講演

## 巻末資料（３）参加行事一覧

実施日	行事等名称	主催者等	開催地
10月4日（金）	特別ウェビナー：欧州における再エネ拡大と地域事情	気候ネットワーク	オンライン
10月12日（土）	令和6年度環境教育・環境保全活動に関するプログラム実践講座	北海道、（公財）北海道環境財団	札幌市
10月16日（水）	市民のための環境公開講座2024 森のめぐみを活かした地域づくり～北海道下川町から～	（公財）SOMPO 環境財団 他	オンライン
10月18日（金）	海森サステナビリティセミナー	SHAKOTAN 海森学校	積丹町
10月22日（火）	市民活動スタッフ養成講座 ファンドレイジング入門	北海道立市民活動促進センター	札幌市
10月23日（水）	エネルギー貧困勉強会	（一社）北海道総合研究調査会	札幌市、オンライン
10月29日（火）	令和6年度前期自然共生サイト認定証授与式	環境省	札幌市
11月10日（日）	魚がいる未来の作り方～海とインターンシップ成果報告会	（一社）DO FOR FISH	札幌市
11月13日（水）	自然と共創する未来ビジネス ～ネイチャーポジティブを深掘る～	CIC Japan	愛知県、オンライン
11月14日（木）	地域循環共生圏フォーラム2024	環境省	オンライン
11月19日（火）	デコ活くしろ・企業向け脱炭素セミナー	釧路市・釧路町・釧路信用金庫	釧路市
11月21日（木）	市民活動スタッフ養成講座 小規模多機能自治と市民活動支援の基礎	北海道立市民活動促進センター	札幌市、オンライン
12月5日（木）	おひさまシンポジウム「地域エネルギーの課題と可能性」	おひさま進歩エネルギー（株） 他	長野県、オンライン
12月5日（木）	中間支援に関するディスカッション「脱炭素地域づくりを支える中間支援組織・活動の必要性」	特定非営利法人 気候ネットワーク	長野県、オンライン

実施日	行事等名称	主催者等	開催地
12月10日(火)	エア・ウォーターの森オープニングパーティ	エア・ウォーター北海道株式会社	札幌市
12月13日(金)	エネルギー貧困勉強会 第2回	(一社)北海道総合研究調査会	札幌市、オンライン
1月10日(金)	デコ活地域交流会(北海道・東北ブロック)	全国地球温暖化防止活動推進センター	仙台市、オンライン
1月11日(土)	2050年の北海道を考える～再生可能エネルギーと地域づくり～	日本地域政策学会北海道支部	札幌市、オンライン
1月25日(土)	海鳥講演会	札幌市円山動物園	札幌市、オンライン
1月28日(火)	SDGs 北海道セミナー2025	北海道・北海道大学・JICA 北海道	札幌市
1月30日(木)	知床・日高山脈襟裳十勝大百科	北海道	札幌市
2月7日(金)	生物多様性ダイアログ パート2	黒松内町	黒松内町
2月10日(月)	第7次エネルギー基本計画及びGXビジョン2040(案)意見交換会	経済産業省北海道経済産業局	札幌市、オンライン
2月15日(土)	KIKO スクールネット北海道ミーティング	JCCCA, TEC	札幌市
2月22日(土)	原生林を燃やす私たちの電気 スライド&トークイベント	パタゴニア日本支社	札幌市
3月5日(水)	専門家と考える、生物多様性と気候変動の未来2～IPBES 最新報告書から学ぶ自然と社会の関係性	国立環境研究所(NIES)	オンライン
3月17日(月)	第9回道総研オープンフォーラム 北海道で暮らし続けるために～これからの地域運営をどう支援するか～	地方独立行政法人 北海道総合研究機構	札幌市・オンライン
3月25日(火)	令和6年度後期自然共生サイト認定証授与式	環境省	札幌市



EPO HOKKAIDO

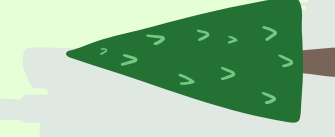
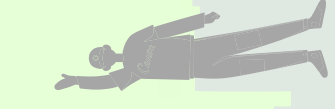
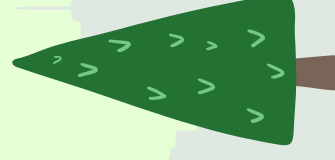
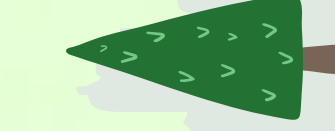
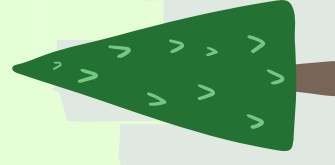
令和 7 年 3 月

巻末資料(4)

30

# 北海道環境パートナーシップオフィス (北海道地方ESD活動支援センター業務を含む) 運営業務 令和6年度事業報告

環境省北海道地方環境事務所  
公益財団法人北海道環境財団





## 地域循環共生圏の実現に向けて

- 課題を解決し続ける自立・分散型地域づくり構想である地域循環共生圏の具体化に向けた支援機能を拡充し、成果の可視化を目指す。

## 地域のための気候変動対策と自然再興

- 本道の強みである自然資本の価値について、先住民が有する自然観等を意識しつつ、地域主導で再評価・ワイズユースする潮流を形成し、地域に裨益する気候変動対策及び自然再興の統合的推進を図る。

## 協働によるESD実践の支援と場づくり

※ **ESD**：持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)

- 教育機関との対話に基づく本格的なESD実践の糸口を探るとともに、第6期着手の動物園における気候変動教育の場づくりを継続し、実装を進める。

## 地域における中間支援の形成と拡充

- 多様な主体との対話を通して、地域の環境政策推進に寄与する最適な中間支援体制の在り方を共有・検討し、その形成と拡充を目指す。

## 高度化する業務への対応力向上

- 高度化する業務の対応に向け、職員のリカレント推進や業務マネジメントの徹底に加え、外部主体との協働を図り、ニーズに応えられる運営体制を形成する。

## 活動目標

## 気候変動対策と自然再興の調和による地域循環共生圏の推進

本道の強みである自然資本を起点とした、気候変動対策と自然再興の調和による地域循環共生圏づくりに向け、道内各地で対話や学びに加え、協働による実践とその支援体制の整備が進み、複数の地域や事業で先進モデルが形成されている状態を目指す。

## 事業構成

主に関わるSDGs



### 【事業群2】地域循環共生圏創造の推進業務

- 2-1 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
- 2-2 身近な自然資本の活用に関する意見交換会

創

### 【事業群3】北海道地方ESD活動支援センター業務

- 3-1 情報収集・発信 相談対応等
- 3-2 ESD・気候変動教育の推進
- 3-3 ESDに関する ネットワーク構築

学

### 【事業群1】環境教育等促進法拠点の基本業務

- 1-1 情報収集・発信 相談対応等
- 1-2 パートナーシップ形成のための対話の場づくり

協

- 1-3 グリーン社会実現に向けた ステークホルダー連携促進
- 1-4 外部資金を活用した 協働事業

支

### 【事業群4】オフィス運営等



統括

宇山 生朗

専門領域は脱炭素施策、行動変容、官民共創等。  
事業群1(基本業務)ほか全体マネジメントを担当。



フエロー

久保田 学

専門領域は環境政策全般、協働ガバナンス等。  
事業群3(ESD)ほか全体フエローを担当。



チーフ  
コーディネーター

溝渕 清彦

専門領域はフアシリ、環境起業の伴走支援等。  
主に事業群2(地域循環共生圏)を担当。



コーディネーター

荒井 由美

専門領域は施設運営、広報等。  
主に事業群1(基本業務)・4(施設運営)を担当。



スタッフ

瀬野 佳月

専門領域はウエルビーイング、ESD等。主に事業群3(ESD)・4(施設運営)を担当。

## 令和6年度事業の計画・実績・評価

### 事業群1

環境教育等促進法の拠点としての基本業務

### 事業群2

地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### 事業群3

北海道地方ESD活動支援センター業務

### 事業群4

オフィス運営等

### 事業群ごとの目標・指標に関する考え方

本事業は下記3点の理由等により、具体的な定量目標・指標の設定が困難です。このことに加え、第六次環境基本計画(R6.5)が示すウェルビーイング実現のための「質的な成長」「非市場的価値の向上」を踏まえるとともに、協働の裁量性を十分に担保する趣旨から、多くは柔軟な定性目標・指標を設定するに留めています。

1. 地域のパートナーシップ(協働)及びオーナーシップ(主体性)が事業設計の根底にあること
2. 連携を図るパートナーによって取組のプロセスが異なり評価目標・指標の変数が大きく生じること
3. 中長期的なアウトカム・インパクトに至るプロセス評価目標・指標が十分に整備されていないこと

## 第7期

## 達成目標

- 対話の場づくりにおいて、学び・対話機会の継続・定着・自走等の進展が見られる。また、道内の官公庁による新たな政策対話の場づくりやそれに基づく政策への反映が確認できる。
- ステークホルダー連携促進において、脱炭素推進における地域主体間の関係性が強化され、具体的な共創事例が確認できる。
- Webアクセス数(R5:70,712件)、メルマガ登録数(R5:1,357件)、相談件数(R5:139件)が第7期末までに2割程増加しており、拠点としての基本業務を着実に遂行できている。

17

パートナーシップで  
目標を達成しよう

## 令和6年度

## 事業内容

**1-1 情報収集・発信、相談対応等**

- 業務全般を通じた情報収集及び関係機関との情報交流
- Webサイトやメルマガ等を活用した情報発信
- 地域循環共生圏等に関する各種照会・相談対応、依頼に基づく各種会合への参加
- 環境中間支援会議・北海道、RCE北海道道央圏等の構成機関となっている会議体への参画

**1-2 パートナーシップ形成のための対話の場づくり**

- 気候変動対策と自然再興をテーマとした学び・対話の場づくり(年3回程度)に加え、道内自治体との連携による政策コミュニケーション実現に向けた対話の場づくり(年2回程度:石狩市など想定)を実施

**1-3 グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進**

- 地域脱炭素に取り組み道内自治体と民間企業の共創促進を目的とした「地域脱炭素マッチング会」の開催(年3回程度、北海道地方環境事務所及び北海道等との協働実施)
- 次年度以降に向けた自然共生サイトの登録を含む自然再興促進に関する官民マッチング機会の検討

**1-4 外部資金を活用した協働事業**

- (独)環境再生保全機構による地球環境基金事業への事業協力(助成金説明会の開催等)

## 令和6年度

## 評価指標

- 対話の場づくり並びにステークホルダー連携促進に係る企画において、参加者の8割から高評価を得る(アンケート調査等での把握)。
- Webアクセス数、メルマガ登録数、相談件数が第7期達成目標に到達するよう着実かつ効率的に事業を行うとともに、支援対象者の満足度把握や相談対応に関する内部評価などをおとして、必要に応じその内容を改善している。

## 事業実績

※令和7年1月  
末現在

## 1-1 情報収集・発信、相談対応等

- 業務全般を通じて、地域循環共生圏等に関わる情報収集を図るとともに、Webサイトや月2回のメルマガ、出講機会を活用し情報発信を行った。
  - サイトアクセス数：EPO北海道 **85,670件**(前年度 70,712件)、北海道地方ESD活動支援センター **41,714件**(前年度 28,654件)
  - メールマガジン登録者数：**1,971件**(前年 1,357件)
- 地域循環共生圏をはじめEPO北海道の基本方針に関する相談や支援の依頼に対応した。… 詳細は下記(1)参照
  - 相談件数：**151件**(前年度 139件)
- 「環境中間支援会議・北海道」を協働で運営し、環境イベントや公募情報等を発信する「環境☆ナビ北海道」を運用した。情報共有を行う定例会を開催した(札幌市 ハイブリッド、第1回 10/4、第2回 3/28)。
- 自治体・団体等の要請に応じ、各種委員会・審査会等に参画した。… 詳細は下記(2)参照
  - 参画数：**7件**
- 関係団体・機関等の要請に応じ、事業への協力、後援等を行った。
  - 協力及び後援数：**11件**

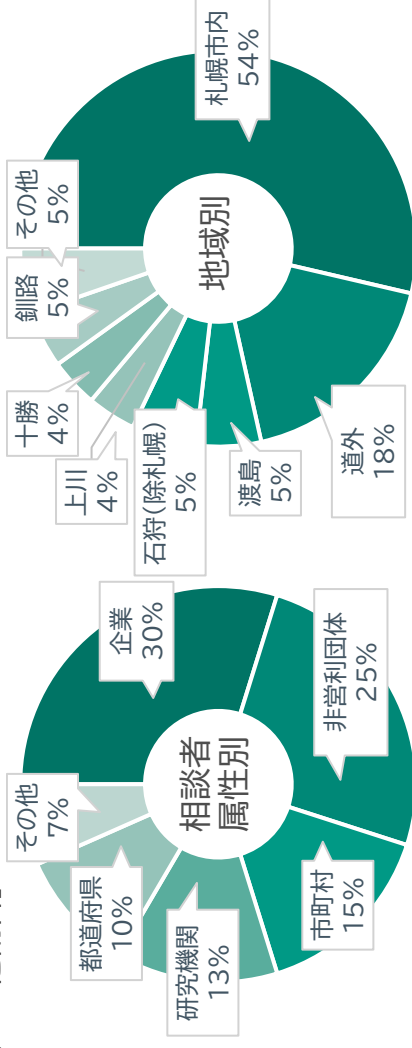
## 主な内容

## (1) 相談対応

[相談件数]151件 [集計期間]令和6年4月1日～令和7年3月31日

[主な相談内容]

気候変動に関する相談(人材育成・官民共創・計画策定・市場調査・再エネ普及とその課題・資金調達等)が半数を占める。次いで生物多様性(自然共生サイト・市場調査・計画策定等)や環境教育(学校・企業向けプログラム等)、持続可能な観光等が続いた。  
[その他割合]



## (2) 自治体や事業者の設置する委員会等への参画

以下の委員会等へ参加した(計7件)。

- ・札幌市環境プラザ運営協議会(札幌市 第1回 10/29)  
[設置者]札幌市環境局環境計画課
- ・石狩市海浜植物保護センター運営委員会(石狩市 第1回 5/27・第2回 2/12)  
[設置者]石狩市環境市民部自然保護課
- ・北海道SDGs推進プラットフォーム SDGs推進委員会(オンライン 12/12)  
[設置者]生活協同組合コープさっぽろ
- ・北海道SDGs連携会議(札幌市 10/31)  
[設置者]北海道総合政策部計画局
- ・七飯町ゼロカーボン推進協議会(七飯町 6/20・11/25・1/28)  
[設置者]七飯町
- ・2024年度北海道学生研究会SCAN合同研究発表会審査員(札幌市 12/7-8)  
[設置者]北海道学生研究会SCAN
- ・第7回持続可能な世界・高校生コンテスト審査員(オンライン 1/26)  
[設置者]第7回持続可能な世界・北海道高校生コンテスト実行委員会

## 事業実績

※令和7年1月  
未現在

## 1-2 パートナーシップ形成のための対話の場づくり

- 気候変動対策と自然再興の両立をテーマとした学び・対話の場づくりを計4回開催した(オンライン、参加者計491人)
- 道内自治体との連携による政策コミュニケーションの実現に向けた対話の場づくりを計3回開催した(参加者計53人)
  - そのほか、地域主体からの依頼・ニーズに基づき、下記テーマに関する対話の場づくりを計4回開催した。
    - (株)とける共催 ミートアップ「地域のコーディネーターという仕事を知る。」(札幌市 5/22、参加者20人)
    - 釧路自然保護協会共催 シンポジウム「釧路湿原の開発と保護の歩みに学び、これからを考える」(釧路市 ハイブリッド、9/23、参加者計200人)、及び第4回もつと釧路湿原学習会「市長と一緒に考えよう！太陽光乱開発と条例」(釧路市 ハイブリッド、1/23、参加者計185人)を地元団体と共催
    - 北海道生物多様性保全計画(第2次計画)の周知を図る企画を北海道、HoBiCCと共催(オンライン 2/6、参加者63人)

… 詳細は下記(1)参照  
… 詳細は下記(2)参照

## 主な内容

## (1)連続企画「地域のための気候変動対策・自然再興とは？」(オンライン)

- ① 第1回 小型風力発電をめぐる課題と自治体の対応 (5/24)  
[講師]藤井 康平氏(北星学園大学経済学部経済学科専任講師)
  - ② 第2回 「エネルギー貧困」とは何か？ ～誰ひとり取り残さない脱炭素社会への移行に向けて～ (6/28)  
[講師]上園 昌武氏(北海道大学経済学部教授)  
[共催](一社)北海道総合研究調査会
  - ③ 第3回 再生可能エネルギーで地域が豊かになるために～「漏れバケツ」からの脱却に向けて～ (9/18)  
[講師]歌川 学氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域主任研究員)
  - ④ 第4回 自然共生サイトと生物多様性増進活動促進法 (11/26)  
[講師]西野 雄一氏(環境省北海道地方環境事務所)、松本 啓吾氏(三菱マテリアル(株))、松本 潤慶氏((公財)日本野鳥の会)、高橋 興世氏(黒松内町)、長谷川 理氏((特非)EnVision環境保全事務所)  
[共催]北海道、生物多様性保全活動連携支援センター(HoBiCC)
- [参加者]①144人 ②122人 ③97人 ④128人

## (2)道内自治体との連携による政策コミュニケーションの場づくり

- ① いしかり生き物かけはし座談会～地域戦略から私たちのアクションへ～(石狩市 8/27)  
[対象]石狩市民及び石狩市生物多様性地域戦略に関心のある方  
[参加者]17人
- ② 苫前町区域施策編策定に関する住民対話ワークショップ(苫前町 9/26)  
[対象]苫前町民  
[参加者]19人
- ③ 七飯町地球温暖化対策実行計画意見交換会(七飯町 10/19)  
[対象]2050年に現役である世代(60歳以下)の七飯町民  
[参加者]17人



((2)②苫前町 ワークショップの様子)



((2)③七飯町 意見交換会の様子)

## 事業実績

※令和7年1月  
未現在

## 1-3 グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進

- 脱炭素に関する困りごとやニーズを持つ道内の自治体と、強みやソリューションを有する民間企業等の共創促進を目的に「地域脱炭素ネットワークフォーラム」を計4回開催した(ハイブリッド、参加者計354人) … 詳細は下記(1)参照
- 地域脱炭素と官民共創を効果的に促す上での課題やニーズの掘り起こしを目的に、地方環境事務所及び北海道同行のもと、市町村に直接訪問しヒアリング及び情報支援を図る「地域脱炭素共創キャラバン」を、上記フォーラムの開催地である2地域で実施した(道東 7/10～12、上川 7/24～25)
  - 道東: 7市町村訪問(鶴居村、標茶町、弟子屈町、羅臼町、標津町、中標津町、浜中町)
  - 上川: 8市町村訪問(士別市、音威子府村、美深町、名寄市、剣淵町、和寒町、愛別町、旭川市)
- 地域の自然環境に関して継続的に活動する環境団体と民間企業の対話及び共創のきっかけづくりを目的に「グリーンインフラの保全と民間連携に係るセミナー及び意見交換会」を計1回開催した(札幌市 ハイブリッド、参加者計316人) … 詳細は下記(2)参照

## 主な内容

## (1) 地域脱炭素ネットワークフォーラム

[共通テーマ] 脱炭素官民共創のノウハウ共有と官民ネットワークキングの場づくり

- ① 札幌市開催(8/20)
  - [内容] 官民連携事例の紹介、座談会(質疑応答)、グループ意見交流会
  - [共催] 北海道地方環境事務所、北海道、(株)ジェイアール東日本企画、(公財)北海道環境財団、EPO北海道 [参加者] 会場 50人、オンライン 45人
- ② 釧路市開催(11/19)
  - [内容] 管内自治体の取組紹介、官民連携事例の紹介、テーブルトーク、交流会
  - [共催] 北海道、北海道地方環境事務所、(公財)北海道環境財団、EPO北海道 [参加者] 会場 66人、オンライン 13人

## ③ 旭川市開催(11/28)

- [内容] 講師による脱炭素セミナー、官民連携事例の紹介、座談会、ワーク、交流会
- [講師] 中川 応能氏(NTT東日本カーポニユートラル推進担当部長)
- [共催] 北海道、旭川市、地方環境事務所、(公財)北海道環境財団、EPO北海道 [参加者] 会場 73人、オンライン 29人

## ④ 札幌市開催(2/14)

- [内容] 太陽光及びZEBに関する事業者ピッチ、座談会(質疑応答)、ブース交流
- [共催] 北海道地方環境事務所、北海道、(株)ジェイアール東日本企画、(公財)北海道環境財団、EPO北海道 [参加者] 会場 34人、オンライン 44人

## (2) グリーンインフラの保全と民間連携に係るセミナー及び意見交換会(札幌市 11/29)

- [共催] 国土交通省北海道開発局、環境省北海道地方環境事務所、EPO北海道
- [協力] 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク
- [備考] 開催前に会場参加者を対象とした現地見学会(南幌町・札幌市)を実施

## ① セミナー

- [内容] 地域共創で進めるグリーンインフラの生物多様性保全に向けて
- [講師] 藤田 香氏(日経ESG編集シニアエディター、東北大学グリーン未来創造機構/大学院生命科学専攻 教授) [参加者] 会場 54人、オンライン 262人

## ② 意見交換会

- [内容] 活動団体の活動発表、企業との対話交流
- [活動団体](一社)かのあ、うみいく、(特非)北海道環境カウンセラール協会、札幌ワイルドサーモンプロジェクト、宮島沼水鳥・湿地センター
- [参加者] 54人

(右図: (2)②意見交換会の様子)





## 事業実績

※令和7年1月  
未現在

## 1-4 外部資金を活用した協働事業

- (独)環境再生保全機構の事業に協力し、地球環境基金助成金説明会を計1回開催した。… 詳細は下記(1)参照

## 主な内容

## (1) 独立行政法人環境再生保全機構 関連事業

① 2025年度地球環境基金助成金説明会(北海道地区)(オンライン10/8)  
[プログラム]

(1) 事例紹介「環境教育から学校づくりの構想へ いきものいんく12年の軌跡」

(2) 地球環境基金助成金 2025年度募集概要及び要望書に係る解説(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)

[事例紹介者] 加藤 康大氏((特非)いきものいんく代表理事)

[主催] (独)環境再生保全機構 地球環境基金部

[協力] JEPO北海道

[参加者] 21人(20団体)



10.8 日 14:00~16:00  
Zoom  
2025年度地球環境基金助成金説明会  
申し込み期間: 10/8(木)14:00~10/10(土)16:00  
申し込み期間: 10/8(木)14:00~10/10(土)16:00

プログラム

1. 事例紹介(加藤康大氏)「いきものいんく12年の軌跡」  
加藤氏は、12年前に設立した環境教育推進事業部の代表として、環境教育の普及に努めてこられました。2025年度の募集概要について、加藤氏が詳しく説明いたします。
2. 地球環境基金助成金の概要  
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部

お申し込み、お問い合わせ

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部  
〒060-0832 北海道札幌市中央区南一条西三丁目1番1号  
TEL 011-252-9965 FAX 011-252-9966  
Eメール: kankyo@jeppo.or.jp

※1 活動実績については、2025年4月1日時点で年数を基準とします。  
※2 要望可能額は応募時に要する団体が発出する要望金額の範囲のため、  
内容や内定後の交付決定額が要望可能額の上限を下回る可能性があります。

(広報フライヤー)

	社会型 [1年間]	社会型 [6ヶ月間の助成]	社会型 [6ヶ月間の助成]
助成期間	1年間	最大3年間	最大3年間
目的	団体の創設・拡大のため、新たな環境保全活動に推進力を与えること	団体の環境保全活動を推進し、地域の成長と社会課題の解決に貢献すること	団体の環境保全活動を推進し、地域の成長と社会課題の解決に貢献すること
対象となる活動	○活動の準備・実施等 ○活動の推進・実施等	○活動の準備・実施等 ○活動の推進・実施等	○活動の準備・実施等 ○活動の推進・実施等
希望可能額	50万円~200万円	200万円~600万円	200万円~600万円
対象条件	助成活動開始の分野における活動実績を1年以上有していること	イ案件・ロ案件・ハ案件	イ案件・ロ案件・ハ案件
要件	※団体設立の要件を満たしている場合も対象となります。 ※選定に地球環境基金の助成を要している場合は対象となります。		
審査方法	書類審査		

※1 活動実績については、2025年4月1日時点で年数を基準とします。  
※2 要望可能額は応募時に要する団体が発出する要望金額の範囲のため、  
内容や内定後の交付決定額が要望可能額の上限を下回る可能性があります。

(地球環境基金助成金の解説)

## 第7期

## 達成目標

- 対話の場づくりにおいて、学び・対話機会の継続・定着・自走等の進展が見られる。また、道内の官公庁による新たな政策対話の場づくりやそれに基づく政策への反映が確認できる。
- ステークホルダー連携促進において、脱炭素推進における地域主体間の関係性が強化され、具体的な共創事例が確認できる。
- Webアクセス数(R5:70,712件)、メルマガ登録数(R5:1,357件)、相談件数(R5:139件)が第7期末までに2割程増加しており、拠点としての基本業務を着実に遂行できている。
- 対話の場づくり並びにステークホルダー連携促進に係る企画において、参加者の8割から高評価を得る(アンケート調査等での把握)。
- Webアクセス数、メルマガ登録数、相談件数が第7期達成目標に到達するよう着実かつ効率的に事業を行うとともに、支援対象者の満足度把握や相対対応に関する内部評価などをおとして、必要に応じその内容を改善している。

## 令和6年度

## 評価指標

## 評価と

## 今後の方向性

## [評価]

● 対話の場づくり並びにステークホルダー連携促進:

いずれの企画においても、アンケート調査にて高評価が8割を超えていることから、一定の評価を得られたと考えられる。また、効率的な運営を努めたことでKPI(想定実施件数)を上回る企画を構築することができた。

対話の場づくりのうち、連続企画「地域のための気候変動対策・自然再興とは?」では、多数の参加者並びに道内外のキーパーソンに対し、今期の重点課題である「公正な移行」に関する論点の提示と情報発信の役割を果たせた。加えて、自治体の政策コミュニケーション支援においても、自治体からの要請が一定数あり、小規模ながらも着実に市民参画の場づくりを定着させてきている。

また、ステークホルダー連携促進のうち、地域脱炭素関連企画では、昨年度と異なる自治体・企業の掘り起こしを重点的に行ったことで、新たなネットワーク構築に繋がられた。さらに自然再興促進に関する市民マッチング機会については、当初予定していた検討に留まらず、企画実行まで完遂できた。

● WEBアクセス数、メルマガ登録数、相談件数:

WEBアクセス数85,670件(前年度比121%)、メルマガ登録者数1,971件(前年度比145%)、相談件数151件(前年比146%)と、いずれも今年度目標が達成できた。

## [今後の方向性]

- 気候変動対策と自然再興の両立を含め、公正な移行については道内各地で依然として課題が大きい。次年度以降もステークホルダーとの協働・対話を重点的に進めていく必要がある。その手段としての自治体による政策コミュニケーション・住民参画の支援も同様に継続していく。当面、自治体による地域裨益型脱炭素や自然再興に関する政策形成の動機付け、住民参加を含むプロセス支援を強化していく必要がある。
- それらの中長期的に強化していく上でも、第7次環境基本計画や環境教育等促進法基本方針等が求める中間支援機能の形成について、地域脱炭素及び自然再興に関する自治体政策及び民間活動の支援体制構築に焦点をあて、次年度以降ステークホルダーとの対話・戦略づくりを加速させる。

## 第7期

## 達成目標

- 事業で関わった地域や団体において、環境、経済及び社会の課題の同時解決に向けたプラットフォームの拡大、中間支援機能の強化、活動の加速が確認され、自走に向けた方向付けができています。
- 道内及び全国のネットワークとして、地域循環共生圏の創造に資する伴走支援や案件形成、中間支援機能の強化プロセス等についての成果が可視化・発信されており、自治体、環境保全・地域づくり関係者、メディア等から一定の評価を受けている。

11

住み続けられるまちづくりを



## 令和6年度

## 事業内容

## 2-1 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

- 右表の「中間支援主体」に対して助言等の伴走支援を行うことで、地域の「活動団体」による地域循環共生圏づくりを促進する（支援計画や実践に対する伴走支援、参加団体を対象とした北海道地方会議の開催等）
- 次年度の地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に係る参加団体の審査委員会運営
- 卒業団体フォローアップ調査
- 全国で実施する作業部会や事業検討会議への出席

	エリア	中間支援主体	活動団体	活動テーマ
1	石狩市 浜益区	特定非営利活動法人 ezorock	浜益地域循環共生圏推進協議会 「続ふかんばん」	陸の孤島の歴史が育むエネルギー自給を中心とした地域循環共生圏づくり
2	美幌町 ほか	株式会社地域価値協創システム	株式会社大雪を囲む会	バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による農・福・環連携事業
3	豊富町	学校法人北海学園	一般社団法人豊富町観光協会	サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進一環、観光・子育て教育・定住を統合した取り組み

※ 参加団体：中間支援主体及び活動団体

## 2-2 身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催

- 身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会の開催（年2回程度、後志地域及び日高地域を予定）

## 令和6年度

## 評価指標

- 活動団体の活動計画が中間支援主体の支援により着実に実行されており、中間支援主体の支援に対する理解が深まっている（支援計画に照らした進捗状況、活動団体及び中間支援主体の評価）。
- 地域循環共生圏に取組む主体間での対話・交流の場の設置により、取組みの拡大に資する広域的なネットワークが構築されている。
- 自然共生サイトなど自然再興に関する取り組みへの理解が深まっている（アンケート等による参加者の評価）。

## 事業実績

※令和7年1月末  
現在

## 2-1 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

- 「中間支援主体」に対して助言等の伴走支援を行うことで、地域の「活動団体」による地域循環共生圏づくりを促進した。… 詳細は下記(1)(2)参照
  - 北海道ブロックキックオフミーティングを主催(鷹栖町 6/14、参加者 17人)
  - 北海道ブロック中間共有会を主催(旭川市 11/20、参加者 25人)
  - 年度当初及び四半期に一度フォローシートをGEOCに提出
- 次年度の地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に係る参加団体の審査委員会の運営(オンライン 12/20)
- 過年度事業の活動団体((特非)北海道エコビレッジ推進プロジェクト)のフォローアップ調査を2025年1月に実施
- 全国で実施する中間支援ガザリング、作業部会や事業検討会議、環境省主催会合等へ計6回参加

## 主な内容

## (1)参加団体の取り組み状況

	種別	団体名	主な活動／支援方策
1	活動団体 中間支援 主体	浜益地域循環共生圏推進 協議会「続ふかんぼ」 特定非営利活動法人 ezorock	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化の可能性を探る地域資源調査(釣堀跡地における小水力発電の可能性検討)</li> <li>・地域ビジョン作成、仲間づくりに向けた、地域フリーペーパー「ネットワーキング浜益」採録冊子の作成、配布</li> <li>・継続的な関係人口の創出や専門人材の接続(資源調査の支援)</li> <li>・石狩市浜益支所の接続等による活動団体の体制構築支援</li> </ul>
2	活動団体 中間支援 主体	株式会社大雪を囲む会 株式会社地域価値協創シ ステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間づくりに向けた、有機農業への関心を持つ既存農家、新規就農者等への情報提供等</li> <li>・事業性を高めるための、新たな道外販路開拓の検討等</li> <li>・専門機関との連携による製炭技術に係る知見の集積</li> <li>・地域団体や学術機関、道外関係者との接続支援</li> </ul>
3	活動団体 中間支援 主体	一般社団法人豊富町観光 協会 学校法人北海学園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民によるステークホルダーミーティング「ワクワクとよとみ未来会議」の開催(2回)</li> <li>・地域ビジョンの作成等に向けた、大学生インターンシップの受け入れ</li> <li>・活動主体を含むコアメンバーの意思決定支援(専門的な知見の提供や会合におけるファシリテーション等)</li> <li>・人材育成に向けた大学生インターンシップの企画、コーディネート(道内外の3大学から6人参加)</li> </ul>

## (2)伴走支援の概要

参加団体に対して、日常的な情報収集や現地見学、北海道ブロックにおけるキックオフミーティング及び中間共有会の機会を活用し、各参加団体の活動状況を観察し、北海道地方環境事務所とともに組織する地方支援事務局として情報の提供や意思決定の促進を行った。特に中間支援主体に対しては、中間支援における各主体の型を言語化し、3年間で達成すべき状況について意識共有を図った。

## 事業実績

※令和7年1月  
未現在

## 2-2 身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催

- 環境省ローカルSDGs「地域循環共生圏」の考え方について地域の関係者で共有し、身近な自然資本を活用した地域づくりを促進するため、環境学習の機会の創出や地域コミュニティの継続に取り組み人材の交流を軸とした意見交換会を計2回開催

- 自然と文化と産業をつなぐ 積丹わくわく会議(積丹町 1/29、参加者43人) … 詳細は下記(1)参照
- 自然資本の活用に関する意見交換会 地域・自然・世界をつなぐアウトドアの仕事(札幌市 3/10、参加者51人) … 詳細は下記(2)参照

## 主な内容

## (1)自然と文化と産業をつなぐ 積丹わくわく会議(積丹町 1/29)

[内 容]積丹町や古平町で新たな取り組みを進めている活動主体から情報提供を行った後、参加者を変えた意見交換を行う

[対 象]積丹町とその近隣地域在住者や企業、積丹町のまちへの関心層

[情報提供者]池田和聡氏(びくに保育園)、小山彩由里氏(積丹町地域おこし協力隊)、櫻井珠真呂氏((株)つぎぎの森 代表)、森 雅人氏((特非)じもっと 理事長)

[協 力]SHAKOTAN海森学校 [後 援]積丹町  
[参加者]43人

## (2)自然資本の活用に関する意見交換会 地域・自然・世界をつなぐアウトドアの仕事(札幌市 3/10)

[内 容]新たな取り組みを進めている道内アウトドア業界のユース世代から情報提供を行った後、参加者を変えた意見交換を行う

[対 象]アウトドア業界の関係者や持続可能な地域づくりの関心層

[情報提供者]岸上夏樹氏((特非)C・C・C富良野自然塾 事業統括)、外崎雄斗氏(奥尻ゲストハウス imacoco 代表)、野田和規氏(株式会社白老ネイチャーオフィス 代表)、原田亮二氏(カヌー屋TOIMOK 代表)

[協 力]アウトドアユースウェーブ北海道、北海道アウトドアネットワーク設立準備会、藤女子大学ワークショップデザインラボ  
[参加者]51人



((1)積丹わくわく会議フライヤー)

## 第7期

## 達成目標

- 事業で関わった地域や団体において、環境、経済及び社会の課題の同時解決に向けたプラットフォームの拡大、中間支援機能の強化、活動の加速が確認され、自走に向けた方向付けができています。
- 道内及び全国のネットワークとして、地域循環共生圏の創造に資する伴走支援や案件形成、中間支援機能の強化プロセス等についての成果が可視化・発信されており、自治体、環境保全・地域づくり関係者、メディア等から一定の評価を受けています。
- 活動団体の活動計画が中間支援主体の支援により着実に実行されており、中間支援主体の支援に対する理解が深まっている(支援計画に照らした進捗状況、活動団体及び中間支援主体の評価)。
- 地域循環共生圏に取組む主体間での対話・交流の場の設置により、取組みの拡大に資する広域的なネットワークが構築されている。
- 自然共生サイトなど自然再興に関する取り組みへの理解が深まっている(アンケート等による参加者の評価)。

## 令和6年度

## 評価指標

## 評価と今後の

## 方向性

## [評価]

● 支援体制構築事業及びネットワークの構築:

活動団体の活動計画が中間支援主体の支援により着実に実行されている。また、中間支援の型に対する言語化、意識化により、中間支援主体の支援に対する理解が深まっている。また、北海道ブロックにおけるキックオフミーティング、中間共有会の機会を活用し、参加団体の共通する分野や課題を整理したことで、参加団体間で個別に情報交換が進んでいる。前事業(地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業)に関連して、他ブロックからの活動団体からの問い合わせにも対応し、広域的なネットワークの構築に貢献している。

● 自然再興に関する理解度:

2回開催した会合には、地域の住民やアウトドア事業に関心のある層が多く参加し、自然と環境、経済の統合的向上や自然再興に対する関心の高さがうかがわれた。会合時に実施したアンケート票調査では、回答のあつたうち「満足した」が9割以上を占め、参加者からは「あらためて自然と産業(漁業)の密接な関わりを考えた」「アウトドア活動は自然を楽しみ、守る一方で、影響も与えている」という話が興味深かった」等の声があった。

## [今後の方向性]

- 支援体制構築事業においては、引き続き参加団体の伴走支援を行いつつ、中間支援主体の活動の観察、分析に取り組む。また、参加団体が先進地の事例参照や視察などを行う場合、その機会を捉えてネットワークの拡大を図る。
- 身近な自然資本の活用に関する意見交換会においては、自然共生サイト登録地域あるいは検討地域などでの開催を視野に入れ、より政策連携を意識した企画を検討する。

## 第7期

## 達成目標

- 北海道地方におけるESD活動支援拠点として、ESDアドバイザーの派遣件数を含めた相談・照会対応件数(R5:76件)が第7期末までに3割以上増加している。
- 道内の動物園・水族館等の施設において、ESD・気候変動教育の継続的取組みが1力所以上導入され関係者に認知されている。
- ESD・気候変動教育をテーマに道内の学校等が参画する対話・情報共有の場が形成されている。

4

質の高い教育を  
みんなに令和6年度  
事業内容**3-1 情報収集・発信、相談対応等**

- ESD活動に関する道内情報の収集・発信及びWebサイトの運用等による域内外への情報提供等
- ESD活動に関する相談・支援窓口
- 学校教育関係者等を対象としたESDアドバイザーの派遣
- 年次報告書の作成(電子データ)及び関係団体への送付

**3-2 ESD・気候変動教育の推進**

- 第6期に着手した「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を継続・推進(時期など関係者間で調整中)
- 道内の他の動物園・水族館等へのヒアリング・対話をととした気候変動教育に関する意向・ニーズの把握
- 「動物園・水族館等における気候変動教育」をテーマとする地域フォーラム(公開行事)を開催

**3-3 ESD活動に関するネットワークの構築**

- 道内地域ESD推進拠点との対話・交流をとしたネットワーク形成、活動支援
- 全国センターによる作業部会、協力団体国会、全国フォーラム等に参加し、ESD・気候変動教育に関する全国ネットワークを形成

令和6年度  
評価指標

- ESDアドバイザーの派遣件数を含めた相談・照会対応件数(R5:76件)が1割以上増加している。
- 道内の動物園・水族館等の施設におけるESD・気候変動教育の継続的な実践に向けて具体的な進展が見られる。
- 道内の地域ESD推進拠点や学校・社会教育施設等におけるESD・気候変動教育に関する新たな取組みが1件以上確認できる。

## 事業実績

※令和7年1月末  
現在

## 3-1 情報収集・発信、相談対応

- 業務全般でESDに関わる国内外の情報収集に加え、Webサイトや月2回のメルマガ、出講機会等を活用し発信を行った。… 詳細は下記(1)参照
  - WEBサイトアクセス数: **41,714件**(前年度 28,654件)※再掲、メールマガジン登録者数: **1,971件**(前年度 1,357件)※再掲、出講数: **3件**
- ESDに関わる相談や支援の要請へ対応した。
  - 相談対応数: **71件**(前年度 74件)
- ESDアドバイザー派遣制度に3人を登録し学校教育機関等に派遣。また、制度普及に広報活動をした。… 詳細は下記(2)(3)参照
  - 派遣数: **2件**(前年度 12件)
- 年次報告書の作成(電子データ)の上、関係団体に送付した。

## 主な内容

## (1) 要請に応じて実施した出講等

- ① 日韓学術文化交流事業訪日団(札幌市 6/18)
 

[主催](公財)日韓文化交流基金  
[内容]北海道におけるESD活動 [参加者]34人
- ② 新得町立屈足中学校(新得町 10/15)
 

[主催]新得町立屈足中学校  
[内容]SDGsと協働による持続可能な社会づくり  
[参加者]18人
- ③ 第3回道立青少年体験活動支援施設社会教育主事研修会(札幌市 12/19)
 

[主催]北海道教育委員会社会教育課  
[内容]SDGs/ESDのいまとこれから [参加者]11人

## (2) ESDアドバイザーの派遣

- ① 北海道小樽高等学校(小樽市 7/18)
 

[アドバイザー]大津 和子氏 [参加者]53人
- ② 石狩市立花川中学校(石狩市 7/26)
 

[アドバイザー]大津 和子氏 [参加者]30人

## (3) ESDアドバイザー派遣制度に係る広報活動

- ① 全道代表高等学校長研究協議会にて制度説明(札幌市 6/11)
 

[主催]北海道教育委員会



(1)① 日韓学術文化交流事業訪日団への出講



(アドバイザー)制度紹介フライヤー



## 事業実績

※令和7年1月末  
現在

## 3-2 ESD・気候変動教育の推進

- 第6期に着手した「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を継続・推進し、動物園と気候変動の関わりを考える企画を計5回開催した。
  - 第18回アースデーin円山動物園「気候変動対策～私たちにできること～」への出展(5/18～19)
  - 「動物園における気候変動教育を考える教員ワークショップ」の開催(8/6 非公開、参加者19人)
  - 「気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園」の開催(札幌市 11/2・16・23 参加者計68人) … 詳細は下記(1)参照
- 道内の学校・社会教育施設のESD・気候変動教育に関するヒアリング・対話を実施した。
  - 動物園・水族館: 11件 … 詳細は下記(2)参照
  - 学校: 4件 … 詳細は下記(3)参照
- 「動物園・水族館等における気候変動教育」をテーマとする地域フォーラム(公開行事)を計1回開催(札幌市 ハイブリッド、3/20、参加者計80人)。

## 主な内容

## (1) 気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園

[共通の内容]園内見学、ゲストの話題提供、意見交換、共有タイム

- ① 第1回 アムールラ・ユキヨウ編(札幌市 11/2)  
[ゲスト]伊藤 健次氏(写真家)、工藤 菜生氏(札幌市円山動物園)  
[参加者]19人
- ② 第2回 アジアゾウ・オランウータン編(札幌市 11/16)  
[ゲスト]八木 亜希子氏((特非)開発教育協会)、朝倉 卓也氏(札幌市円山動物園) [参加者]23人
- ③ 第3回 ゴマフアザラシ・ワシ類編(札幌市 11/23)  
[ゲスト]小林 万里氏(東京農業大学)、菊池 晏那氏(札幌市円山動物園)、長谷川 理氏((特非)EnVision環境保全事務所)  
[参加者]26人

## (2) 動物園・水族館へのヒアリング

- ① 旭川市旭山動物園(旭川市 4/8)
- ② AOA SAPPORO(札幌市 5/17)
- ③ 新さっぽろサンピアザ水族館(札幌市 6/26)
- ④ ノシヤップ寒流水族館(稚内市 7/4)
- ⑤ 釧路市動物園(釧路市 9/24)
- ⑥ おびひろ動物園(帯広市 10/30)
- ⑦ おたる水族館(小樽市 11/5)
- ⑧ 標津サーモン科学館(標津町 11/12)
- ⑨ 千葉市動物公園(千葉市 12/19)
- ⑩ 登別マリンパークニクス(登別市 12/23)
- ⑪ サケのふるさと千歳水族館(千歳市 1/15)

## (3) 学校への訪問・ヒアリング

- ① 石狩市立双葉小学校(石狩市 4/26)
- ② 帯広農業高校(帯広市 10/30)
- ③ 岩見沢農業高校(岩見沢市 11/6)
- ④ 北海道伊達開来高校(伊達市 12/23)



(1)告知フライヤー



(1)① 共有タイムの様子

(1)② 園内見学の様子

(1)③意見交換の様子

## 事業実績

※令和7年1月末現在

## 3-3 ESD活動に関するネットワークの構築

- 道内地域ESD推進拠点との対話・交流をおとしたネットワーク形成、活動支援を実施した。…詳細は下記(1)参照
  - 社会教育主事研修会での情報提供、ESD拠点訪問及び伴走支援
- 全国センターによる作業部会、協力団体合合、全国フォーラム等に参加した。
  - 第1回ESD活動支援センター連絡会議(東京 6/13)、第2回ESD活動支援センター連絡会議(東京 1/17)
  - 第1回ESD活動支援企画運営委員会(オンライン 6/27)、第2回ESD活動支援企画運営委員会(オンライン 2/28)
  - 全国ネットワーク団体意見交換会(東京 7/24)
  - ESD作業部会(東京 7/25、2/25)
  - ESD推進全国ネットワークフォーラム(東京 12/1) …詳細は下記(2)参照

## 主な内容

## (1) ESD推進拠点へのヒアリング及び支援

- ① 道立青少年体験活動支援施設(ネイパル砂川/ネイパル深川/ネイパル森/ネイパル北見/ネイパル足寄/ネイパル厚岸)
  - 第3回道立青少年体験活動支援施設社会教育主事研修会(札幌市 12/19)にて「SDGs/ESDのいまとこれから」に係る情報提供、意見交換(事業3-1再掲)
- ② 国立日高青少年自然の家(日高町)
  - SDGsに係る情報提供及び意見交換(12/10)
- ③ (特非)サロベツ・エコ・ネットワーク(豊富町)
  - 湿原保全等に関する情報交換(7/2)
- ④ (特非)北海道エコビレッジ推進プロジェクト(余市町)
  - エネルギー自給勉強会、企業向けWell-being研修などに係る相談対応(4/15、10/15、オンライン 11/1)
  - 企業向けWell-being研修検討会の開催協力(12/16)

## ⑤ (同)エゾリンク(札幌市)

- エコサイエンス体感研修への参加(苫小牧市 6/21、参加者20名)
- 事務所訪問・助言(6/26)
- GREEN BUSINESS PRODUCERSを交えて環境に関する人材育成について情報交換(7/17)
- アプリ開発企画支援・打ち合わせ(2/20)

## (2) 全国ネットワークへの参加

- ① ESD推進全国ネットワークフォーラム(東京 12/1)
  - ポスターセッションとの連携プロジェクトの取り組みの発表



((1)④ Well-being研修検討会の様子)



((2)① ポスターセッションの様子)

<p><b>第7期 達成目標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道地方におけるESD活動支援拠点として、ESDアドバイザーの派遣件数を含めた相談・照会対応件数(R5:76件)が第7期末までに3割以上増加している。</li> <li>● 道内の動物園・水族館等の施設において、ESD・気候変動教育の継続的取組みが1カ所以上導入され関係者に認知されている。</li> <li>● ESD・気候変動教育をテーマに道内の学校等が参画する対話・情報共有の場が形成されている。</li> </ul>
<p><b>令和6年度 評価指標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ESDアドバイザーの派遣件数を含めた相談・照会対応件数(R5:76件)が1割以上増加している。</li> <li>● 道内の動物園・水族館等の施設におけるESD・気候変動教育の継続的な実践に向けて具体的な進展が見られる。</li> <li>● 道内の地域ESD推進拠点や学校・社会教育施設等におけるESD・気候変動教育に関する新たな取組みが1件以上確認できる。</li> </ul>

## 評価と今後の 方向性

### 【評価】

#### ● 派遣件数を含めた相談・紹介対応:

ESDセンターへの相談・照会対応件数は71件(前年度比93%)と、顕著に増加しているわけではないが、安定して寄せられている。アドバイザー派遣については前年度と比べて利用数が減っており、十分に活用されているとはいえない。

#### ● ESD・気候変動教育の継続的な実践:

札幌市円山動物園での一連の企画はそれぞれ参加者・関係者から高い評価を得ており、試行的な実践としては一定の成功を収めている。また、直接間の情報発信により全国の関係者からも注目されており、その主流化に向けて着実に貢献してきている。道内主要動物園・水族館の取組状況等についても訪問・対話を進め、初年度内に概ね把握することができた。各園館への拡張に向けたさまざまな課題も明らかになった。

#### ● 地域ESD推進拠点や学校・社会教育施設等での新たな取組み:

地域ESD推進拠点については、(特非)北海道エコビレッジ推進プロジェクトにおける企業向けWell-being研修プログラムの開発・実証を支援するなど、EPOの重点取組と重なる分野を中心に、複数の拠点と新たな取組み創出のための対話や支援を重ねてきている。道内の高校については、先導的な気候変動教育の取組みのヒアリングに着手することができ、一部情報発信も実施できた。

### 【今後の方向性】

- ESDアドバイザーに関しては、周知の強化とともにニーズを再検討する必要がある。学校教育関係者との対話の強化が求められる。
- 動物園・水族館等での事業については、自走や他園館での実施に向けて、企業・団体との協働による実施体制構築が次の目標となる。
- 地域ESD推進拠点による取組を引き続き共創・支援していくとともに、学校における気候変動教育に焦点を当てた対話・交流・情報発信が期待される。

## 第7期

## 達成目標

- 事業群1～3に資する、運営協議会の設置・開催や施設の維持・管理が滞りなく執行できている。
- 運営メンバーが書類の電子化やオンライン環境、次世代のコミュニケーション技術に適応しており、各業務に活用できている（内部評価、関係主体の評価、運営協議会による評価等）。
- 全国事業において、EPOネットワーク全体の活性化と円滑な調整に寄与している。

## 令和6年度

## 事業内容

**4-1 運営協議会の設置・開催**

- 道内で環境保全及びESDに関する取り組みを行う多様な関係者の参加を得るため、運営協議会を設置し、開催（年2回程度、委員10名程度）

**4-2 施設の維持・管理**

- EPO北海道の設備等の維持・管理
- 業務効率の改善や資源保護、コスト削減等の観点から、書類の電子化を推進

**4-3 全国事業に関わる業務**

- 全国EPO連絡会（3回程度）や情報交換会等、全国事業に関わる会合への参加

## 事業実績

※令和7年1月末現在

## 4-1 運営協議会の設置・開催

・EPO北海道及び北海道地方ESD活動支援センターの事業運営について、幅広い関係者の参画、協議を得ることを目的に、委員10人(オブザーバー5機関)から構成される北海道環境パートナーシップオフィス運営協議会を設置し、会議(第1回:札幌市 5/29、第2回:札幌市 1/27)を開催した。

## 4-2 施設の維持・管理

・北海道地方環境事務所の参加による月例スタッフミーティングを月に1回(年12回)開催。毎週1回以上、オフィス内での情報共有の機会を設け、業務に関する情報や支援に対する認識等について共有、意見交換を実施。

## 4-3 全国事業に関わる業務

・各地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的とした全国EPO連絡会(第1回:東京都及びオンライン 6/12、第2回:富山県及びオンライン 10/1~2、第3回:東京及びオンライン 1/16~17)に出席した。また、EPOの全国業務の進行管理・連絡調整・情報共有等の目的で開催される会合等に全て出席した。

第7期  
達成目標

- 事業群1~3に資する、運営協議会の設置・開催や施設の維持・管理が滞りなく執行できている。
- 運営メンバーが書類の電子化やオンライン環境、次世代のコミュニケーション技術に適応しており、各業務に活用できている(内部評価、関係主体の評価、運営協議会による評価等)。
- 全国事業において、EPOネットワーク全体の活性化と円滑な調整に寄与している。

評価と  
今後の方向性

- **施設の維持・管理:**  
スタッフの入れ替わりもあつたが問題なく維持・管理できている。OJT及びOff-JTを積極導入し、新規スタッフへの知識・ノウハウの継承を行い、より一層の円滑な施設運営に努める。
- **次世代のコミュニケーション技術の適応:**  
スタッフ間の情報共有にクラウドを活用したほか、外部連携者との打ち合わせ等にウェブ会議や情報共有ツール等を積極使用し業務効率化を図った。今後も次世代技術を取り入れながら更なる業務効率化を進めていく。
- **全国事業との円滑な調整:**  
GEOCや他地方EPOと全国事業に関する意見交換・議論を重ね、全国EPOの活性化と円滑な調整に寄与した。引き続き密に連携を図りながら効果的に業務を遂行していく。

# 北海道地方ESD活動 支援センター 2024年度レポート



北海道地方  
ESD活動支援センター  
ESD Resource Center of Hokkaido, Japan



ESD (Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育)は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。また、ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、国連教育科学文化機関(UNESCO)は2019年には、新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(SDGs for 2030)」を採択しました。これを踏まえ我が国も関係省庁が第2期ESD国内実施計画(2021年)を策定し、5つの優先行動分野を設定して進めています。

ESD活動支援センターは、ESDを推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方ESD活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス(地方EPO)に開設され、学校教育や社会教育におけるESDを推進しています。

## 地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」等との連携のもとに、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

### 【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

## 地域ESD拠点

（地域ESD活動推進拠点）

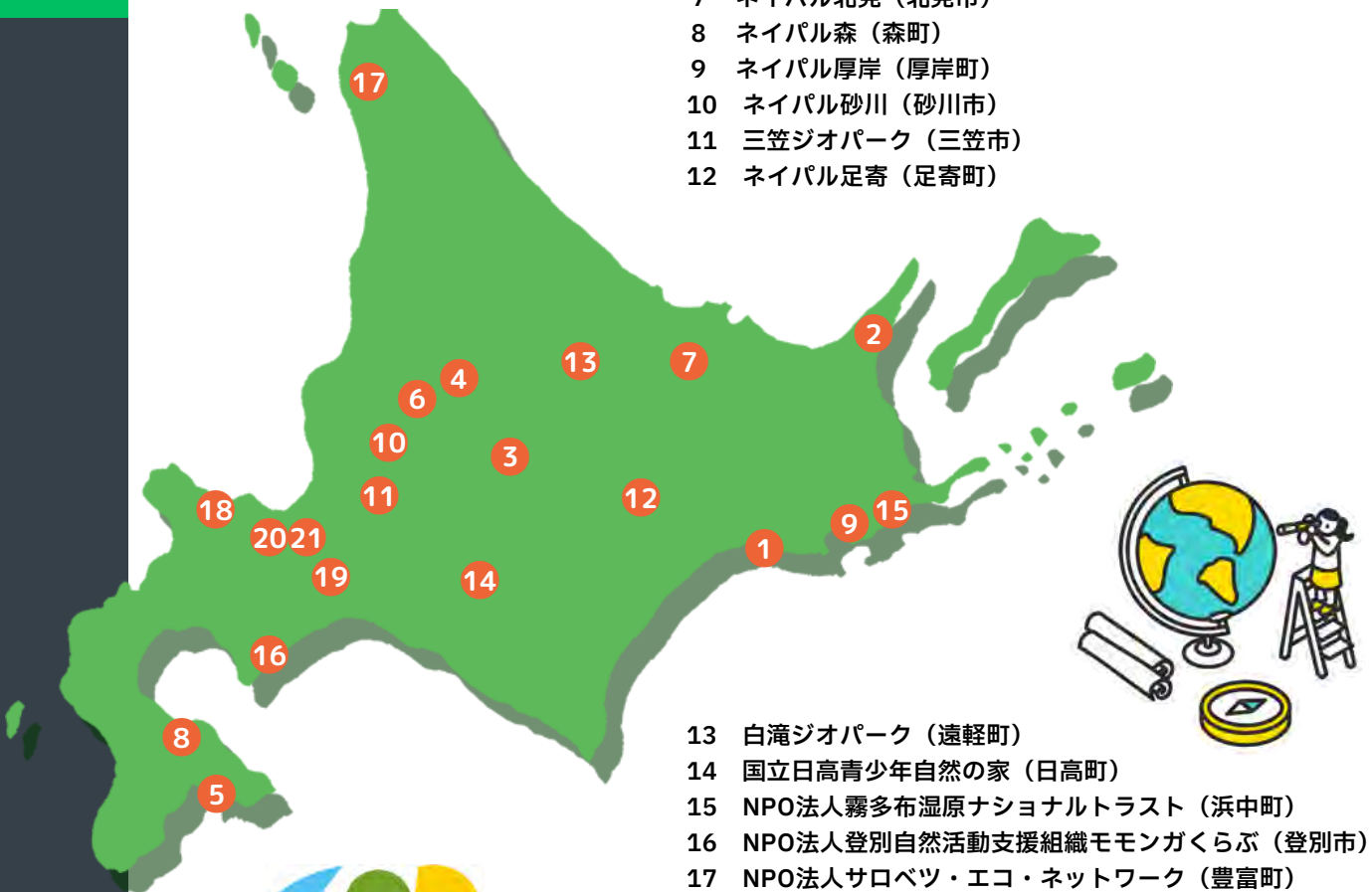
学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまに「地域ESD拠点」として登録をいただいています。

地域ESD拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することで、「ESD推進ネットワーク」において中核的な役割を果たします。登録をお考えの皆さまは、ぜひ地方センターにご相談ください。



地域ESD拠点について  
(ESDセンターHP)

- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイパル深川（深川市）
- 7 ネイパル北見（北見市）
- 8 ネイパル森（森町）
- 9 ネイパル厚岸（厚岸町）
- 10 ネイパル砂川（砂川市）
- 11 三笠ジオパーク（三笠市）
- 12 ネイパル足寄（足寄町）



北海道内の地域ESD拠点  
(2025年3月現在・登録順)

- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）
- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 株式会社アレフ えこりん村事業部（恵庭市）
- 20 NPO法人さっぽろ自由学校「遊」（札幌市）
- 21 合同会社エゾリンク（札幌市）

## 地域ESD拠点

### プロジェクト協力

北海道地方センターは、地域ESD拠点の活動への企画協力等を行っています。本年度の主な取り組みは以下のとおりです。

#### ●道立青少年体験活動支援施設

(ネイパル砂川/ネイパル深川/ネイパル森/ネイパル北見/ネイパル足寄/ネイパル厚岸)

第3回道立青少年体験活動支援施設社会教育主事研修会（札幌市12/19）にて「SDGs/ESDのいまとこれから」に係る情報提供、意見交換を行いました。

#### ●合同会社エゾリンク

エゾリンクでは体験重視・対話型の教育プログラムを考案、展開をしています。企業向けに行ったエコサイエンス体感研修（苫小牧市6/26）への参加・協力、環境に関する人材育成についてグリーンビジネスに関する人材育成を行う社団法人を交えての情報交換、その他企画支援等を行いました。



#### ●NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト

エコビレッジとは環境負荷の少ない暮らしと住民が支え合う仕組みを実践するコミュニティです。農業体験や共同作業を通じた学生や企業等の研修受け入れや持続可能な暮らしや社会についての学習機会の提供を行っています。本年度新たに企画したエネルギー自給勉強会や企業向けwell-being研修の企画協力、開催協力等を行いました。



## ESD for 2030 学び合いプロジェクト

### 気候変動教育

ESD推進ネットワークは、SDGs達成に向けた教育分野の取組として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」を進めています。地方センターではそれぞれが気候変動を切り口としたESD「気候変動教育」を進めています。

#### ●脱炭素社会の実現に不可欠な「気候変動教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく、社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには、多くの人々が気候変動対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れていくことが求められます。

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」となるよう、ESDの充実が期待されています。しかし国内の学校では、教科としての環境教育は実施されておらず、多くの人々がレジャーなど様々な目的で訪れる社会教育施設においても、気候変動に関する学びの機会は限られています。

#### ●「気候変動教育」の実施拠点づくりをめざして

北海道地方センターでは「気候変動教育」の新たな拠点づくりに向けて、2023年度から札幌市円山動物園と協働で「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を実施しています。

(※4~5ページ)

また、北海道内の動物園・水族館などの社会教育拠点における気候変動教育の可能性を検討するべく、ヒアリングや意見交換を進めてきました。





# 札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園や水族館、博物館・科学館等の社会教育施設は、生物多様性の意味や地球規模の環境変化と私たちの暮らしのつながりを知る、気づきや学びの場として大きな可能性を持っています。そこで、2023年度より札幌市円山動物園と協働し、動物園での気候変動教育の可能性について検討・試行し、他園館への展開も見据えてプロジェクトを進めています。2024年度は前年度に環境教育実践者や専門家・関係機関等とワークショップを重ねて検討した結果をもとに、いくつかのプログラムを試行的に実施しました。

## ●気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園（全3回）

展示動物を入りに、生息地の環境変化や気候変動などの様々な影響を知り、それらと私たちの暮らしや社会・経済との複雑なかかわりを考える対話の場として開催しました。いずれも動物園のスタッフによるテーマ動物のガイド、ゲストからの対象地域にまつわる話題提供、参加者同士の意見交換という流れで実施し、園内ガイドを含むため少人数での開催としました。

主催：札幌市円山動物園、北海道地方ESD活動支援センター  
協力：特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所

### アムールトラ・ユキヒョウ編～寒帯林・高山帯で何が起きているのか～

【日 時】 2024年11月3日（土）13:00～16:00

【参加者】 19人

【ガイド】 寒帯館

【ゲスト】 伊藤健次さん（写真家）

工藤菜生さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 高山帯や寒帯林の環境、自然と共生する先住民の暮らし、人間活動や気候変動の直接間接の影響による環境変化を写真から学び、問題解決へのアプローチや動物園の役割について意見交換を行いました



### アジアゾウ・オランウータン編～アジアの森と私たちの暮らし～

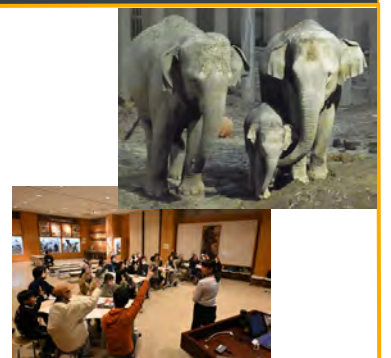
【日 時】 2024年11月16日（土）13:00～16:00

【参加者】 23人

【ガイド】 ゾウ舎、オランウータンとボルネオの森

【ゲスト】 八木亜紀子さん（特定非営利活動法人開発教育協会）  
朝倉卓也さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 熱帯雨林の開発と私たちの生活とのかかわりについて、パーム油を題材にワークショップを行い、エシカルな暮らし・経済の可能性について対話しました



### ゴマフアザラシ・ワシ類編～気候変動と北海道の野生生物～

【日 時】 2024年11月23日（土）13:00～16:00

【参加者】 26人

【ガイド】 猛禽舎、ホッキョクグマ館

【ゲスト】 小林万里さん（東京農業大学）

長谷川理さん（EnVision環境保全事務所）

菊池晏那さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 気候変動の影響を直接間接に受けている北海道の野生生物について知り、そこから気候変動を身近な問題ととらえての対話を行いました



## ●動物園における気候変動教育を考える教員ワークショップ

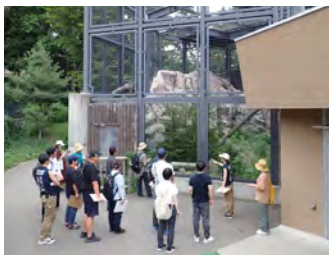
円山動物園での校外学習受け入れや出前授業による、気候変動を切り口とするESDの可能性を小学校の先生・円山動物園スタッフとともに考える場として開催しました。同時に、札幌市環境副教材（※）への反映も検討しました。

※札幌市は環境教育の推進を目的として市内の小中学生全員に学齢期別の副教材を配布しています。

【日 時】2024年8月6日（火）9:30～12:30 【場 所】札幌市円山動物園

【メンバー】札幌市環境副教材ワーキンググループメンバー（小学校教諭7名）、  
札幌市教育委員会、札幌市環境政策課、円山動物園スタッフ

【内 容】・円山動物園の環境教育・気候変動に関する取り組みの紹介  
・園内フィールドワーク（動物園スタッフによる園内ガイド）  
・学びの場としての動物園の活用と副教材への反映を検討するワークショップ



## ●ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム

### 「動物園・水族館と考える気候変動・生物多様性」

動物園や水族館は、生き物を通してその生息環境に思いを寄せ、生物を守ることの意味や私たちの暮らしとのつながりについて、たくさんの学びやきっかけを提供してくれます。

2024年度の「ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム」は、その役割と可能性を伝えるべく、動物園や水族館、気候変動や生物多様性、環境教育に興味のある方を広く対象としました。北海道内の動物園・水族館の中には、その特徴を生かして気候変動や生物多様性を学んだり考えたりするような取り組み、挑戦を行っている施設もあります。

このフォーラムでは今年度の学びあいプロジェクトを報告するとともに、それらの取り組みを共有し、今後の展開や可能性について考えました。

【日 時】2025年3月20日（木・祝）13:00～15:15

【参加者数】現地30人／オンライン50人

【場 所】札幌市円山動物園およびオンライン

【講 演】「動物園・水族館における持続可能性に向けた環境教育の役割と可能性」  
松本朱実さん（社会構想大学院大学）

【パネルトーク】進行：佐竹輝洋さん（札幌市円山動物園）

「北海道の動物園・水族館と考える気候変動・生物多様性」

- ・久保田学（北海道地方ESD活動支援センター）  
「気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園」
- ・高田学さん（旭川市）  
「旭山動物園の脱炭素化」
- ・有賀望さん（札幌市豊平川さけ科学館）  
「どう伝える？  
サケを取り巻く生物多様性の課題と気候変動の影響」
- ・工藤菜生さん（札幌市円山動物園）  
「英国の動物園に見る環境教育」

意見交換

上記登壇者、飯島なつみさん（札幌市円山動物園）



## ESD アドバイザー 派遣制度

北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育におけるESD/SDGsの導入や実践、現場の課題解決を支援するため「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝金及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

### ●こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」は、どのようにすれば実現できるのか？ SDGsを学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画とESD/SDGsとの関連は？ …  
学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGsの教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

### ●登録アドバイザー ※五十音順、所属は2024年6月現在



#### 大津和子さん

北海道教育大学名誉教授

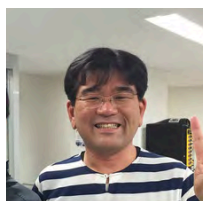
キーワード 主体的・対話的で深い学び /  
SDGs / 国際理解教育



#### 金澤裕司さん

前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹

キーワード 自然と人間 / 地域の持続的発展 /  
総合的な学習による学力向上



#### 松田剛史さん

藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授

キーワード SDGs / カリキュラム・マネジメント /  
PBL / 教育課程



派遣制度についてはこちら  
(北海道センターHP)

### ●派遣制度ご利用の条件

1. 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
2. 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
3. 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
4. 宗教・政治活動が目的ではないこと



### ●2024年度 派遣実践 ※申請主体 - テーマ

- ・北海道小樽高等支援学校（小樽市）  
- 学校教育におけるESD×SDGs、今までの活動を踏まえた今後の方向性
- ・石狩市立花川中学校（石狩市）  
- ESD/SDGsの理論と実践、教育課程への位置づけ、総合的な学習と他教科の連携方法

北海道地方ESD活動支援センター  
(環境省北海道環境パートナーシップオフィス内)  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階  
TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931  
URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>  
発行 2025.3

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

北海道地方環境事務所請負業務

令和6年度（10～3月）北海道環境パートナーシップオフィス

（北海道地方ESD活動支援センター業務を含む）運営業務報告書

---

公益財団法人 北海道環境財団

〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目1番 伊藤・加藤ビル4階

TEL：011-218-7811 FAX：011-218-7812

URL：<http://www.heco-spc.or.jp>

---